

令和4年度
(2022年度)

履修の手引

熊本県立大学

文学部

令和4年度「履修の手引」は在籍期間を通じて使用しますので、大切に保管してください。

熊本県立大学では以下のとおり理念、目的、学位授与方針及び教育課程編成・実施の方針を定めています。

◆ 理念

1 総合性への志向

本学は、人文・社会・自然の学問の三分野から成る大学として、学際的な方法を重視しつつ、総合的な知の形成を目指す。

2 地域性の重視

本学は、「地域に生き、世界に伸びる」を標榜（ひょうぼう）し、地域社会に開かれた大学として、当面する諸問題を分析し解決すること、地域の知的創造の拠点となることを目指す。

3 国際性の推進

本学は、グローバル化に対応して、アジアをはじめ世界の多様な文化を学びつつ、諸外国の人々との交流を進め、国際的・多元的な文化の創造を目指す。

◆ 目的（学則第1条）

熊本県立大学は、豊かな教養と高度な専門性を有し、総合的な知識と実践力、創造力を備えた有為な人材を育成するとともに、研究成果を社会に還元し、教育研究資源を地域に提供することを通じて、熊本県ひいては国際社会の発展に寄与することを目的とする。

◆ 全学（学士課程）の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

1 学生が身につける資質・能力の目標

<知識・理解>

幅広い知識・教養に基づき学問の意義を理解し、自己を認識して、将来を構想できる。

<思考・判断>

多角的視点を備え、自ら課題を抽出し、論理的、分析的に思考して、総合判断ができる。

<関心・意欲>

地域社会及び国際社会に興味・関心を有し、異質性を認めることができる。

<態度>

積極性、自律性及び行動力を身につけ、社会状況の変化に柔軟に対応でき、社会において協調し協働できる。

<技能・表現>

他者と理解しあい、共生していく上に必要なコミュニケーション能力がある。

2 学位の授与（学士課程）

4年以上在学し、学部理念及び教育研究上の目的に沿って設定した授業科目を履修して、学部において定める所定の単位数を修得した学生に学位を授与する。

◆ 全学（学士課程）の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1 教育課程の編成

全学共通の「共通教育」と各学部・学科の「専門教育」から編成する。

「共通教育」は、学部4年間の教育課程（学士課程）において総合的に学ぶことで広い視野から認識・思考する能力を身につけ、「専門教育」で修得する学問を充実したものとする教育を行う。また、大学ユニバーサル化時代における「市民性」の涵養をも視野に入れる。以上を理念とし、次のような方針で編成する。

- ・共通科目群を「基盤科目」と「教養科目」に分ける。

- ・基盤科目では、大学で学ぶための、また社会で行動していくための基礎能力を育成する教育を展開する。

- ・特に初年次に、必修科目として、大学で学ぶ姿勢と方法を理解するとともに、自己のキャリアを継続的にデザインしていく能力を育成する科目を配置し、大学4年間での主体的・計画的な学修を促す。

- ・教養科目では、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識等を幅広く学び、様々な角度から物事を見ることが出来る能力を培うことで豊かな人間性を養う、いわゆる「教養教育」を展開する。

「専門教育」は、各学部・学科の特性に応じ、講義、演習、実習、実験等の専門科目を順次性を考慮して、体系的に配置する。

2 教育方法

- ・教育目標の達成に向け、各科目において、適切な形態を採って授業を展開するとともに、能動的学修を適切に組み込んで行う。

- ・学生の学修時間等の実態把握や授業計画の明確化、必要な授業時間の確保により、単位制度の実質化を図る。

3 学修成果の評価

学位授与方針（ディプロマポリシー）に掲げる資質・能力の修得状況を、授業、学科、学部、大学のそれぞれにおいて把握し、それに基づいて、授業、学科、学部、大学の各教育課程における学修成果を評価する。

- ・授業の単位認定は、「シラバス」に定める成績評価基準により担当教員が行う。

- ・授業の学修成果は、「シラバス」に定める成績評価基準と学生自身の自己評価に基づいて評価する。

- ・学科、学部としての学修成果は、個々の授業における学修成果の集計と学生の学修状況に基づき、学科、学部独自の評価方法を加味し、総合的に評価する。

- ・大学としての学修成果は、授業、学科、学部としての学修成果に基づき、総合的に評価する。

- ・専門教育の到達は、各学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づく評価表等を用いた卒業論文評価により確認する。

●文学部の理念

文学部における教育・研究の主たる対象は人間とその文化であり、現代を含む歴史的な視野に立ってこれを考察し、その本質を明らかにする。

●人材養成の目的

文学部では、人間文化の探究を通して、言語、文学、歴史、思想等について豊かな教養を有し、地域社会および国際社会の発展に貢献する有為の人材を養成する。

日本語日本文学科では、日本文学を学ぶことを通して我が国の文化を継承するとともに、中学校・高等学校の国語教員ならびに日本語教師といった専門的職業人として活躍できる人材、あるいは日本語と日本文学の素養をさまざまな形で社会に活かすことのできる人材を養成する。

英語英米文学科では、英語による高度なコミュニケーション能力を身につけ、英語学、英文学、米文学、英語教育の専門的な知識を備えた、中学校・高等学校の英語教員といった専門的職業人や広い知識と国際感覚をもって社会で活躍することのできる人材を養成する。

●その他の教育研究上の目的

文学部は、言語、文学、歴史、思想等に亘る人文的教養の基礎に立ち、日本語、日本文学、日本語教育、あるいは英語、英米文学、英語教育を専門的に教育・研究することを目的とする。

●学位授与方針（ディプロマポリシー）

【学部】

1 学生が身につける資質・能力の目標

<知識・理解>

- 人文学における基礎的知識や方法を学び、幅広い観点から物事を考察する能力を修得している。
- 専門的研究活動に不可欠な知識と方法論を修得している。
- 修得した教養と専門的知識を通じて人間と文化の本質的価値を理解している。

<思考・判断>

- 教養・専門教育を通して、さらには、卒業論文執筆作業を通して、自ら課題を設定し、分析し、整理する、総合的判断能力を修得している。
- 学内外における諸活動に於いて、自ら課題を設定し、分析し、整理することができ、総合的判断能力を修得している。

<関心・意欲>

- 人文学に関する豊かな知識と能力に基づき、地域社会の特色を理解し、その在り方に思索を巡らす意欲がある。
- 人文学に関する豊かな知識と能力に基づき、国際的な視野に立って情報を正確に収集し、異文化を理解しようとする意欲がある。

<態度>

- 人文学を学ぶことで得た知見を発展的に継承する態度が見られる。
- 人文学の知見を共有していこうとする態度が見られる。

<技能・表現>

- 自分自身の考えを的確に発信する能力を修得している。
- 豊かな人間関係を維持するための十分な人間性を備え、そのために必要な技能を修得している。
- 国際的な人間関係を作り上げるために必要な人間性を備え、そのために必要な知識、コミュニケーション技能を修得している。

2 学位の授与（学士課程）

4年以上在学し、1に掲げる資質・能力を身につけ、文学部の各学科において定める所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

【日本語日本文学科】

1 学生が身につける資質・能力の目標

<知識・理解>

- 日本語及び日本文学の専門知識を軸に、関連する人文系その他諸分野の基礎知識と学問の方法を身につけている。
- 日本語と日本文学の史的展開についての知識を有し、それをふまえて日本の文化を深く理解している。

<思考・判断>

- 日本語及び日本文学について、抱いた関心をもとに課題設定ができ、必要な資料・データを収集・整理・分析し課題解決ができる。

<関心・意欲>

- 日本語や日本文学、日本文化について、修得した知識をもとに自発的に関心を広げていく意欲がある。

<態度>

- 日本語及び日本文学を学ぶことで得た知見を発展的に継承する態度が見られる。
- 日本語及び日本文学の知見を共有していこうとする態度が見られる。

<技能・表現>

- 現代の規範に則った日本語を操り、場面や状況に応じてそれにふさわしい話し方、書き方ができる。
- 学科の専門知識について、一般の人に理解できるような説明ができる。

2 学位の授与（学士課程）

4年以上在学し、1に掲げる資質・能力を身につけ、学科において定める所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

【英語英米文学科】

1 学生が身につける資質・能力の目標

<知識・理解>

- 英語学・英語教育・英米文学・英語圏文化について広く深い教養と専門的知識を身につけている。
- 英語それ自体、または英語で書かれたテキストを学術的に分析する知識と方法論を修得し、それに基づいて、異文化を深く理解すると同時に自国の文化を相対化できる能力を身につけている。

<思考・判断>

- カリキュラムを通して培った論理的な考察能力を活用して、英語や英語圏の文学・文化、さらには広く社会に関して思索を巡らす能力を修得している。

<関心・意欲>

- 英語や英語圏の文学や文化、思想に関する豊かな学術的知識を、国際情勢や異文化への深い関心へと発展させる意欲がある。

<態度>

- 英語学・英米文学・英語教育や英語圏の文化を学ぶことで得た知見を発展的に継承する態度が見られる。
- 英語学・英米文学・英語教育や英語圏の文化の知見を共有していこうとする態度が見られる。

<技能・表現>

- 英語に関する語学的知識を習得し、実践的運用能力を身につけている。
- 自己の考えや主張を正確に表現して発信できる能力を修得している。

2 学位の授与（学士課程）

4年以上在学し、1に掲げる資質・能力を身につけ、学科において定める所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

●教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

【学部】

1 教育課程の編成

4年間を通じて、文学・言語を中心とした人文学の基礎的知識を身につけ、併せて全学共通科目及び学部共通科目により総合的な素養を身につけることで、幅広い知見と判断力を養い、広く多角的に物事をとらえ思考できるよう、両学科とも以下のような理念のもとカリキュラムを編成する。

1・2年次

幅広い教養を身につけるとともに、キャリア形成を意識し、多様な領域を学ぶ。専門領域の基盤となる文化、歴史、言語、思想、文学などについての知識と思考法を学び専門領域へと結びつける。さらに、「読む・聞く」を通して理解した内容を整理して表現できる力を養う。

3年次

各自の関心に合わせて専門的な知識を増やし、分析・考察する能力を高めていく。自己の考えや主張を適切な表現を用いて発信しようとする態度や、それに必要な能力を身につける。

4年次

1～3年次までに身につけたものを活用して卒業論文の作成を行う。自ら設定したテーマについて探求し、その内容について自らの言葉で他者に向けて論じるという過程を経験することで、社会生活に必要な思考・判断・表現・伝達能力を総合的に高める。

2 教育方法

- ・教育目標の達成に向け、各科目において講義・演習・フィールドワーク等、適切な形態を採って授業を展開し、能動的学修を適宜に組み込んで行う。
- ・授業時間外の学修時間を確保し、単位の実質化をはかる。
- ・学部、学科にふさわしい形で、「地域性」「国際性」を顧慮した教育に努める。

3 学修成果の評価

学位授与方針（ディプロマポリシー）に掲げる資質・能力の修得状況を、学部において把握し、それに基づいて、学部の各教育課程における学修成果を以下のように評価する。

- ・授業の単位認定は、「シラバス」に定める成績評価基準により担当教員が行う。
- ・授業の学修成果は、「シラバス」に定める成績評価基準と学生自身の自己評価に基づいて評価する。
- ・学部としての学修成果は、個々の授業における学修成果の集計と学生の学修状況に基づき、各学科と学部独自の評価方法を加味し、総合的に評価する。
- ・専門教育の到達は、各学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づく評価表等を用いた卒業論文評価により確認する。

【日本語日本文学科】

1 教育課程の編成

1年次では、将来のキャリア形成に関する意識を醸成し始め、各種「概論」「基礎論」を通して、日本語・日本文学研究のための基礎的な知識を身につけつつ、併せて各時代の「文学史」（一部2年次にわたる）や「概論」により、文学・語学への関心を喚起する。また、歴史・言語・思想の面から、広く人文学にわたる基礎的な知識と思考法を身につけ、ことばと作品を扱うための基盤を養う。

2年次では、各種の知識を補いつつ、「演習」により知識の応用と思考・判断、資料操作の実践を積む。そのような実践を通して、文章の正確な読解とまとめの力を、そしてそれを発表することにより、考えを伝えるための表現力を養う。また、「演習」は「日本語学」分野と「日本文学」分野とから、それぞれ1科目を必修とすることで、ことばを扱う力と作品を読解する力をバランスよく身につける。

3年次では、学生各自の関心に合わせ卒業論文制作を見据えながら「特殊研究」を選択し、テーマに応じた問題の切り口を探し、分析方法と論述の仕方を学ぶ。併せて、関心を内的なものに留めず、外に向けて論理的に発信しようとする態度を身につける。

4年次では、1～3年次での学修成果の集大成として、卒業論文に取り組む。また学生各自の必要に応じ、知識や思考、技能のための科目を補完的に履修する。

卒業論文への取り組みを通じては、日本語・日本文学に関する自発的な関心をもとに、それまで得た知識と分析力を駆使し、論理的に考えをまとめる力を育む。併せて、社会生活に必要な思考力・判断力・表現力を体得する。

以上のような観点で、必要な科目を各学年ごとに配置する。

2 教育方法

- ・教育目標の達成に向け、各科目の趣旨に応じた適切な形態により授業を展開する。また、科目趣旨にあわせ能動的学修を組み込んで教育を行う。
- ・授業時間外の学修時間を確保し、単位の実質化をはかる。
- ・地域に根ざした教育を行いつつ、普遍性・国際性への視野を育む教育を行う。

3 学修成果の評価

学位授与方針（ディプロマポリシー）に掲げる資質・能力の修得状況を、学科において把握し、それに基づいて、学科の教育課程における学修成果を以下のように評価する。

- ・授業の単位認定は、「シラバス」に定める成績評価基準により担当教員が行う。
- ・授業の学修成果は、「シラバス」に定める成績評価基準と学生自身の自己評価に基づいて評価する。
- ・学科としての学修成果は、個々の授業における学修成果の集計と学生の学修状況に基づき、学科独自の評価方法を加味し、総合的に評価する。
- ・専門教育の到達は、各学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づく評価表等を用いた卒業論文評価により確認する。

【英語英米文学科】

1 教育課程の編成

1 年次

2年次以降の英語学・英語教育・英米文学・英語圏やその他の言語文化について広く深い教養と専門的知識を身につけるための基盤となる「読む・書く・聞く・話す」の英語コミュニケーション能力の基礎を形成する。また、1, 2年次にわたって、専門領域の基盤となる歴史、言語、思想、文学の基礎的知識・思考法を身につけ、主体的学修を促す。同時に、英米文学の講読授業や英文法の講義等により、英語の仕組みや英語圏の文学や文化、思想への関心を喚起する。

2 年次

口頭による英語プレゼンテーション能力を強化しつつ、4技能のバランスの取れた英語コミュニケーション能力を伸長する。また、英語という言語や英語で書かれた文学作品を学術的に分析する知識と方法論を学び、異文化を深く理解すると同時に自国の文化を相対化できる能力を身につける。また、全学共通科目、学部共通科目との連携の上に、コア領域を軸としつつも様々な言語、文化に広く展開し、多角的に関心を広げ、知識を得る。

3 年次

学術的な活動あるいは社会に出たときに広く使える実践的な言語運用能力を身につける。また、「特殊研究（卒論）」の領域を考慮した「演習」科目によって、英語学・英語教育・英米文学・英語圏やその他の言語文化について広く深い教養と専門的知識、論理的な考察能力を身につけ、修得した英語・日本語等の言語運用能力に基づいて、自己の考えや主張を正確に表現して発信できる能力を修得する。

4 年次

1～3年次までに学んだ各領域の知見を発展させ、自身の関心のあるテーマに結びつけ、深く探求する力を身につける。問題発見、解決のための計画を立案・実行し、卒業論文として正確に記述できる。さらに、英語・日本語等の言語運用能力を駆使して得られた知見をまとめ、発信する。

2 教育方法

- ・教育目標の達成に向け、各科目の趣旨に応じた適切な形態により授業を展開する。また、科目趣旨にあわせ能動的学修を組み込んで教育を行う。
- ・授業時間外の学修時間を確保し、単位の実質化をはかる。
- ・本学の理念の1つである「国際性の重視」に基づき、普遍性・国際性への視野を育む教育を行う。

3 学修成果の評価

学位授与方針（ディプロマポリシー）に掲げる資質・能力の修得状況を、学科において把握し、それに基づいて、学科の教育課程における学修成果を以下のように評価する。

- ・授業の単位認定は、「シラバス」に定める成績評価基準により担当教員が行う。
- ・授業の学修成果は、「シラバス」に定める成績評価基準と学生自身の自己評価に基づいて評価する。
- ・学科としての学修成果は、個々の授業における学修成果の集計と学生の学修状況に基づき、学科独自の評価方法を加味し、総合的に評価する。
- ・専門教育の到達は、各学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づく評価表等を用いた卒業論文評価により確認する。

目 次

文学部

I 令和4年度（2022年度）授業暦	6
II 履修の概要（全学年共通）	
1 授業科目区分	11
2 単位について	11
3 学期区分及び授業時間	12
4 試験について	12
5 履修登録手続きについて	13
6 GPA制度について	16
III 履修について	
1 共通科目群について	19
2 日本語日本文学科の教育課程紹介 （進級要件、卒業要件、履修モデル）	24
3 英語英米文学科の教育課程紹介 （進級要件、卒業要件、履修モデル）	32
4 学科別授業一覧	37
5 教育職員免許状の取得について	51
IV 日本語教員養成課程（主専攻・副専攻）について	60

大学関係の規程等について

学生ポータル、メール、チャット、掲示を見る習慣をつけましょう

学生の皆さんへの連絡は、原則として学生ポータル、メール、チャット、掲示により行います。来学時には、必ず学内の掲示板（講義棟1号館学生ロビー、本部棟ホール、大ホール前学生ロビー）を確認してください。

なお、主要な掲示は大学ホームページや学科HPにも掲載しますが、個人情報保護の観点から掲載できない内容もありますので、学内掲示を必ず見るようにしてください。

I 令和4年度（2022年度）授業暦

※今後の状況によって変更が生じる場合があります。

熊本県立大学（前学期）

	日	月	火	水	木	金	土	備考						
2022 4月						1	2							
	3	4	5	6	7	8	9	4/9 入学式						
	10	11	①	12	①	13	①	14	①	15	①	16	4/11 前学期授業開始 4/11-20 履修登録期間	
	17	18	②	19	②	20	②	21	②	22	②	23		
	24	25	③	26	③	27	③	28	③	29	祝	30		
5月	1	2	3	祝	4	祝	5	祝	6	③	7		5/2 開学記念日 5/8 体育祭（PUK リンピック）	
	8	9	④	10	④	11	④	12	④	13	④	14		
	15	16	⑤	17	⑤	18	⑤	19	⑤	20	⑤	21		
	22	23	⑥	24	⑥	25	⑥	26	⑥	27	⑥	28	補	5/28 補講日
6月	29	30	⑦	31	⑦	1	⑦	2	⑦	3	⑦	4		
	5	6	⑧	7	⑧	8	⑧	9	⑧	10	⑧	11		
	12	13	⑨	14	⑨	15	⑨	16	⑨	17	⑨	18		
	19	20	⑩	21	⑩	22	⑩	23	⑩	24	⑩	25	補	6/25 補講日
7月	26	27	⑪	28	⑪	29	⑪	30	⑪	1	⑪	2		
	3	4	⑫	5	⑫	6	⑫	7	⑫	8	⑫	9	7/9 入学試験（研究科秋季入学）	
	10	11	⑬	12	⑬	13	⑬	14	⑬	15	⑬	16	7/16 オープンキャンパス準備日	
	17	18	祝	19	⑭	20	⑭	21	⑭	22	⑭	23	7/17-18 オープンキャンパス 7/23-24 オープンキャンパス予備日	
	24	25	⑭	26	⑮	27	⑮	28	⑮	29	⑮	30	補	7/25-29 補講週間（各日6限目） 7/30 補講日
8月	31	1	⑮	2	補	3	試	4	試	5	試	6	8/2 補講日	
	7	8	試	9	試	10	試	11	祝	12		13	8/3-8/10 前学期試験日	
	14	15		16		17		18		19		20	8/11-9/29 夏季休業 8/12, 15 サマー・ECO デー	
	21	22		23		24		25		26		27	8/27 入学試験（環境研究科）	
9月	28	29		30		31		1		2		3	8/28 電気設備点検に伴う停電	
	4	5		6		7		8		9		10		
	11	12		13		14		15		16		17		
	18	19	祝	20		21		22		23	祝	24	9/22 秋季卒業式（予定） 秋季入学式（予定） 前学期成績発表（予定）	
	25	26		27		28		29		30	①		9/24-25 入学試験（文・アドミニ研究科）	

○各授業時間 1時限 8:40~10:10 2時限 10:20~11:50 3時限 12:50~14:20
4時限 14:30~16:00 5時限 16:10~17:40 6時限 18:00~19:30

授業時間が令和4年度から変更になっていますのでご注意ください。

・4/29 昭和の日 ・5/3 憲法記念日 ・5/4 みどりの日 ・5/5 こどもの日
・7/18 海の日 ・8/11 山の日 ・9/19 敬老の日 ・9/23 秋分の日

熊本県立大学（後学期）

	日	月	火	水	木	金	土	備考
2022 10月	25	26	27	28	29	30	① 1	9/30 後学期授業開始 9/30-10/9 履修登録変更期間
	2	3	① 4	① 5	① 6	① 7	② 8	
	9	祝 10	② 11	② 12	② 13	② 14	③ 15	10/10 月曜日第2回目授業 10/15-16 入学試験（自己推薦型選抜）
	16	17	③ 18	③ 19	③ 20	③ 21	④ 22	
	23	24	④ 25	④ 26	④ 27	④ 28	⑤ 29	
11月	30	31	⑤ 1	⑤ 2	⑤ 3	祝 4	⑥ 5 補	11/5 補講日
	6	7	⑥ 8	⑥ 9	⑥ 10	⑤ 11	12	11/11 休講（白亜祭準備） 11/12-13 白亜祭
	13	14	⑦ 15	⑦ 16	⑦ 17	⑥ 18	⑦ 19	
	20	21	⑧ 22	⑧ 23	祝 24	⑦ 25	⑧ 26	
12月	27	28	⑨ 29	⑨ 30	⑧ 1	⑧ 2	⑨ 3	12/4 入学試験（特別選抜）
	4	5	⑩ 6	⑩ 7	⑨ 8	⑨ 9	⑩ 10 補	12/10 補講日
	11	12	⑪ 13	⑪ 14	⑩ 15	⑩ 16	⑪ 17	
	18	19	⑫ 20	⑫ 21	⑪ 22	⑪ 23	⑫ 24	12/24-1/5 冬季休業
	25	26	27	28	29	30	31	
2023 1月	1	祝 2	3	4	5	6	⑬ 7	1/6 授業再開
	8	9	祝 10	⑬ 11	⑫ 12	⑫ 13	14	1/13 大学入学共通テスト設営（立入禁止） 1/14-15 大学入学共通テスト（立入禁止）
	15	16	⑬ 17	⑭ 18	⑬ 19	⑬ 20	⑭ 21	1/21-22 大学入学共通テスト予備日 1/23-27 補講週間（各日6限目）
	22	23	⑭ 24	⑮ 25	⑭ 26	⑭ 27	⑮ 28 補	1/28 補講日
2月	29	30	⑮ 31 補	1	⑮ 2	⑮ 3	試 4	1/31 補講日
	5	6	試 7	試 8	試 9	試 10	試 11 祝	2/4 入学試験（私費外国人留学生） 2/4-5 入学試験（研究科入試） 2/3-10 後学期試験日
	12	13	14	15	16	17	18	2/11 入学試験（環境研究科）
	19	20	21	22	23	祝 24	25	2/24 入学試験（一般・前期）設営（立入禁止） 2/25 入学試験（一般・前期）（立入禁止）
	26	27	28	1	2	3	4	
3月	5	6	7	8	9	10	11	3/11 入学試験（一般・後期）設営（立入禁止）
	12	13	14	15	16	17	18	3/12 入学試験（一般・後期）（立入禁止）
	19	20	21	祝 22	23	24	25	3/21 卒業式 3/24 後学期成績発表（予定）
	26	27	28	29	30	31		

○各授業時間 1時限 8:40~10:10 2時限 10:20~11:50 3時限 12:50~14:20
4時限 14:30~16:00 5時限 16:10~17:40 6時限 18:00~19:30

授業時間が令和4年度から変更になっていますのでご注意ください。

- ・10/10 スポーツの日 ・11/3 文化の日 ・11/23 勤労感謝の日
- ・1/1 元日 ・1/9 成人の日 ・2/11 建国記念の日 ・2/23 天皇誕生日 ・3/21 春分の日

II 履修の概要

Ⅱ 履修の概要

1 授業科目区分

本学では、次のとおり授業科目を区分し、教育課程を編成しています。

科目群ごとの区分は次のとおりですが、学部、学科によって内容、履修方法等が異なるので注意してください。

区分	分類	分野
共通科目群	基盤科目	外国語（英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語）、健康スポーツ科学、情報処理とデータサイエンス、キャリアデザイン、地域理解とリーダーシップ
	教養科目	人間と文化、自然と環境、社会と世界
専門科目群		
教職関連科目群		

2 単位について

単位とは、学修の量についての基準を示すものであり、授業と図書館、自宅などにおける授業時間以外の合計 45 時間の学修をもって 1 単位（よって 2 単位は 90 時間の学修が必要）としており、授業科目ごとに単位数が定まっています。授業の履修によりそれらを積み重ね、一定数の単位の修得をもって卒業の要件としています。

【1 単位の修得に必要な学修時間】

授業の形態	授業	授業以外の時間	合計
講義	15～30	30～15	45（時間）
演習	15～30	30～15	45（時間）
実験・実習	30～45	15～0	45（時間）

通常、毎週行う講義・演習では、時間割の 1 コマ(90 分) を 2 時間とみなしており、前学期・後学期（各 15 週）の 1 コマ授業であれば 1～2 単位（授業科目によって異なる。）修得できるようになっています。

なお、具体的には、授業科目ごとに修得できる単位数が設定されていますので、「学科別授業一覧」を参照してください。

3 学期区分及び授業時間

4月から9月までが前学期、10月から翌年3月までが後学期であり、科目履修の1つの区切り日となっています。授業時間は次のとおりとなっています。

※授業時間は新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み変更されることがあります。

午前		午後	
1時限目	8:40～10:10	3時限目	12:50～14:20
2時限目	10:20～11:50	4時限目	14:30～16:00
		5時限目	16:10～17:40
		6時限目	18:00～19:30

なお、授業科目によって、夏季休業中などに日時を設定し、集中講義の形式で授業を行うこともあります。

4 試験について

(1) 試験の方法

通常は定期試験として前学期末、後学期末の2回行われますが、集中講義などの場合、臨時に行われることもあります。日程は掲示により示されます。また、レポート提出などの方法により行われることもあります。この他に、病気、怪我、就職試験の受験、忌引、不慮の災害その他やむを得ない事情により試験を受験できなかった場合、追試験を行うことがあります。追試験を希望する者は、当該授業科目の試験終了後7日以内に科目担当者の許可を得て、「追試験受験許可願」を教務入試課に提出してください。

また、受験の際は、必ず学生証を持参し、机上に提示しておかなければなりません。

学生は受験にあたっては、あらかじめ「熊本県立大学試験に関する規程」及び「定期試験の受験心得」を熟読しておいてください。

当該授業科目の開設される学期中に除籍され、停学に処され、退学し、又は休学した者に対しては、成績の認定は行われません。

(2) 成績の評価

次の5段階に評価されます。

秀	100点 ～ 90点	合格
優	89点 ～ 80点	
良	79点 ～ 70点	
可	69点 ～ 60点	
不可	59点以下	不合格

追試験の成績は得点の9割以下とし、再試験（試験に不合格だった者が再度受ける試験）の成績は、最高成績を合格最低成績60点とします。

秀・優・良、又は可の評価を受けた者は、その科目所定の単位が認定されます。不合格となった科目は、必要に応じ翌年度以降あらためて履修することとなります。

既に単位を修得した科目について、改めて履修手続きを経たうえで、再度履修することができます。

学業成績は、教務システムで確認してください。確認ができるようになる期日については、学内掲示により周知します。

5 履修登録手続きについて

基本的注意事項

- (1) 履修登録は、単位を修得するために必要な手続きであり、これを怠ったり、誤ると単位が修得できないので慎重に行ってください。履修登録をしないで授業を受け、試験を受けても単位を修得できません。
- (2) 次の授業科目は履修できないので注意してください。
 - ① 履修登録をしていない授業科目
 - ② 上級学年次に開設されている授業科目
 - ③ 授業時間が重複する授業科目
- (3) 履修登録期間終了後の登録はいっさい認められません。わからないことがあれば、必ず履修登録期間内に所属するゼミの教員、もしくは教務担当教員、学年担任等へ尋ねてください。
- (4) 他の学部、学科の授業を履修したい場合は、P38「他学部・他学科開講科目の履修について」を参照してください。
- (5) 当該授業科目が開講される学期中に休学した場合は、その授業科目の単位は修得できません。
- (6) 通年の授業科目については、後半の学期の授業を先に受講しても単位は修得できません。
- (7) 各演習・セミナー、卒業論文、教育実習についても、履修登録が必要です。
- (8) 登録内容の確認を怠ったり、期限を守らなかった場合には、どのような履修上の不利益が生じても本人がその責任を負わなければなりません。
- (9) 手続きに変更が生じた場合、その時点で掲示を行います。そのため、履修登録期間中は掲示を毎日見るようにしてください。

注意事項（重要）

平成24年度から文学部でキャップ制（履修登録単位数の上限設定）が導入されており、令和2年度からは全学部^(※)でのキャップ制導入及び単位数の上限が変更になっています。これに伴い、令和2年度以降入学者は、1年間に49単位（前学期・後学期の合計単位数）を超えて履修登録することができません。（履修規程第2条の2第1項）

ただし、①教職関連科目群科目・関連科目（他学部、他学科、他専攻科目として履修する場合は除く）、②インターンシップ、③大学院科目の早期履修、④長期休業中の恒久的な集中講義については、キャップ制の除外科目です。（履修規程第2条の2第2項）

キャップ制の趣旨は、履修科目について講義を受講するだけでなく、予習・復習により理解を深め、知識を確かなものにしてもらうことにあります。後学期受講科目や集中講義を含めた年間の履修計画を立てて履修登録してください。

なお、年間通じて一定以上の成績を修めたうえで申請を行った場合、次年度の履修登録単位数上限が緩和されます。成績の基準は P.16「6 GPA制度について」の(3)③をご覧ください。

※環境共生学部環境共生学科食健康環境学専攻を除く

履修登録方法

- (1) 本書、シラバス、前年度成績などを参考に、授業時間割と照合して1年間に履修する授業科目を決定し、その授業科目を後学期分を含めて、教務システムより履修登録してください。
- (2) 履修登録期間中に登録入力を完了してください。登録の完了前に次の事項を確認してください。
 - ① **必修科目、集中講義はもちろん、他にも履修科目の入力もれはないか。**
 - ② **卒業論文や演習、教育実習の入力を忘れていないか。**
- (3) 履修登録期間は授業開始後10日間しかないため、期限を厳守してください。
- (4) 登録前に履修の手引（本書）、Webシラバスをよく読んでください。
- (5) 履修登録期間以外の追加・変更登録は認められないので慎重に登録してください。
- (6) 履修登録についての掲示を行いますので、履修登録期間中は毎日掲示を見てください。
- (7) 履修登録者が教室の収容定員を超えた授業科目については、履修者数の制限を行う場合があります。制限方法については、授業の中で説明しますので、必ず初回授業に出席してください。
- (8) その他：「Q&A」（次頁）を参照してください。

履修登録についてのQ&A

Q1：どの科目を履修すべきか知りたいのですが。卒業要件についてききたいのですが。

A1：本書の卒業要件の説明をよく読んだ上で、所属するゼミの教員、もしくは教務担当教員、学年担任等へお尋ねください。

Q2：履修登録期間に登録するのを忘れてしまいました。期日経過後に受け付けてもらえますか。

A2：追加・変更も含め受け付けません。「5 履修登録手続きについて」の、基本的注意事項の(3)及び(8)を参照してください。履修登録しなかった科目の単位は修得することができません。

Q3：履修登録すべき授業科目やクラスなどが間違っていたことに履修登録後に気付いたのですが変更できますか。

A3：履修登録期間中であれば変更できます。

Q4：同じ曜日・時限に開講されている、複数の科目を受けたいのですが。

A4：「5 履修登録手続きについて」の、基本的注意事項の(2)を参照してください。ただし、ともに隔週開講で1週おきに授業が行われる科目同士は履修が可能です。

Q5：語学の再履修クラスと他の授業科目が同じ曜日・時限に開講されているのですが。

A5：必修科目と重複している等、やむを得ない場合は学部の語学担当教員に相談してください。

Q6：集中講義の履修登録をしたいのですが、開講時期が未定のものはいつ登録すればよいのですか。

A6：集中講義も通常の履修登録期間に登録してください。

ただし、履修削除については、集中講義の日程を掲示した日から開講初日（初日が休業日の場合はその直前の平日）まで受け付けます。詳細は、掲示を確認してください。

Q7：新しい科目等への変更があったようで、授業一覧にある科目が履修登録画面に表示されません。

A7：カリキュラムが変更された場合、入学時の授業一覧にある科目の代わりに新カリキュラムの科目を登録・履修できる場合があります。これを「単位の読み替え」と言い、履修ガイド等で示す読替表に沿って履修登録をしてください。単位は授業一覧に記載された科目名に対して認定されます。

Q8：教務システムでエラーが出るのですが。

A8：主なエラーと、対処法は以下のとおりです。その他に新たなエラーが発生した場合は、対処方法について掲示を行うか教務システムのトップメニューに表示されるので確認してください。

- ・ユーザIDまたはパスワードが違います。
 - ユーザIDにg+（学籍番号）を入力してください。
 - パスワードが間違っています。
- ・セッションがタイムアウトになりました。
 - ブラウザのウインドウを閉じ、再度ログインする。

Q9：教務システムで分からないところがあるのですが。

A9：ログイン画面以降についての問い合わせは教務入試課で受け付けます。中央コンピュータ室では回答できないので注意してください。また、エラーメッセージが表示された場合はメッセージの内容を正確に書きとめておいてください。正確なエラーメッセージが分からない場合は、質問に回答できない場合があります。

履修登録手続きフローチャート

授業科目決定	各自、シラバス、時間割、前年度成績（成績通知表）などを参考に1年間に履修する授業科目を決定する。
---------------	--



履修登録 前学期授業開始日から10日間 ^(※1)	各自、履修する授業科目（後学期開講科目も含む）を、情報処理実習室のパソコン等を使用し、 ^(※2) 教務システムにより登録する。登録の内容は、各自履修確認画面前期で確認し、必ず各画面を印刷して保管する。 2年次生は、自己判定で進級が可能かどうかの判定をする。 3年次生は、自己判定で卒論履修が可能かどうかの判定をする。 4年次生は、自己判定で卒業が可能かどうかの判定をする。
---	--



前学期（通年）の履修科目確定

後学期履修変更 後学期授業開始日から10日間 ^(※1)	各自、履修科目（後学期開講科目のみ対象）の変更内容を、情報処理実習室のパソコン等を使用し、 ^(※2) 教務システムにより登録変更する。登録の内容は、各自履修確認画面後期で確認し、必ず各画面を印刷して保管する。 2年次生は、自己判定で進級が可能かどうかの判定をする。 3年次生は、自己判定で卒論履修が可能かどうかの判定をする。 4年次生は、自己判定で卒業が可能かどうかの判定をする。
--	--



後学期の履修科目確定

- ※1 仮履修登録（変更）期間が先行して設定されている場合は、まずその期間に登録を行ってください。仮履修登録（変更）期間に登録しなかった場合、遠隔授業のクラス登録が間に合わず、最初の1～2回目の授業に参加できないことがあります。
- ※2 学外から教務システムにアクセスし、履修登録をすることも可能ですが、予め学内での設定が必要です。

6 GPA制度について

GPA (Grade Point Average)制度は、アメリカの大学で広く採用され日本でも多くの大学で導入されている成績評価システムです。本学でも、GPA制度が適用されます。(熊本県立大学履修規程第10条)

(1) 本学のGPA算定方法

本学では、各科目毎の「秀、優、良、可、不可」の5段階の成績評価とは別に、授業科目毎の成績評価(試験の得点、得点は100点満点)に対し下記の計算式に基づきポイントを付与し、1単位当たりの平均を算出し、5点満点で表記します。

科目毎G P = (得点 - 50) ÷ 10 【ただし、得点が50以下のときは0とする。】

学期毎G P A =
$$\frac{[(履修登録科目の単位数) \times (科目毎G P)]の総和}{(履修登録科目の単位数)の総和}$$

累 積G P A =
$$\frac{[(入学後の履修登録科目の単位数) \times (科目毎G P)]の総和}{(入学後の履修登録科目の単位数)の総和}$$

GPAは、5点満点で、小数点第1位まで表記(小数点第2位以下切り捨て)しています。ただし、成績優秀者表彰などで順位を出す必要がある場合は、小数点第2位以下まで算出しています。

(2) GPAに算入しない科目(次に掲げる科目については、GPA算定の対象外としています。)

①教職関連科目群、②インターンシップ(1~7)、③食健康環境学専攻の関連科目群、④総合管理学部専門科目群中の関連科目群、⑤他大学等での履修科目、⑥外部試験による単位認定科目

(3) GPAと学生生活との関連について

①成績優秀者表彰

GPAが優秀な者に対して、大学から表彰を行います。

- (1) 成績優秀賞 各学期において、GPA算定対象科目を10科目以上修得し、かつGPAが3.5以上で学科(環境共生学部にあつては専攻)毎に上位5%以内の者
 - (2) 特別成績優秀賞 各学期において、GPA算定対象科目を10科目以上修得し、かつ4学期連続してGPAが4.0以上の者
 - (3) 学長賞 卒業時に卒業要件を4年間にすべて充足し、かつ累積GPAが4.0以上で、卒業論文(研究)を優秀な成績で修めた者のうち、学長が認める者
- (1)と(2)の表彰式は6月(前年度後期分)と11月(当該年度前期分)の年2回開催されます。
(3)の表彰は卒業式時に行われます。いずれも表彰状及び記念品が授与されます。

②成績不振者に対する個人指導

学期毎GPAが2.0未満の学生に対しては、担当教員から個人指導が行われます。

③その他

次のような場合にGPAが利用されます。

- 1) キャップ制の上限緩和(文学部) 通年GPA3.8以上、(環境共生学部) 通年GPA3.6以上、いずれも4単位
- 2) 上級学年配当科目の履修条件(総合管理学部のみ) GPA3.5以上の者、6単位
- 3) 大学院科目の履修条件(文学部及び総合管理学部)
- 4) その他、授業料の減免や奨学金関係の成績要件等判定

Ⅲ 履修について

Ⅲ 履修について

1 共通科目群について

学部4年間の教育課程(学士課程)において総合的に学ぶことで広い視野から認識・思考する能力を身につけ、「専門教育」で修得する学問を充実したものとする教育を行います。また、大学ユニバーサル化時代における「市民性」の涵養をも視野に入れます。以上を理念とし、次のような方針で編成しています。

- ・ 共通科目群を【基盤科目】と【教養科目】に分ける。
- ・ 【基盤科目】では、大学で学ぶための、また社会で行動していくための基礎能力を育成する教育を展開する。
- ・ 【教養科目】では、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識等を幅広く学び、様々な角度から物事を見ることが出来る能力を培うことで豊かな人間性を養う、いわゆる「教養教育」を展開する。

科目分野毎の目的は次のとおりです。

【基盤科目】

① 外国語

国際化の進展に伴い、発生する社会的諸問題もまた国際化する傾向にあり、これに対処するため、英語、ドイツ語、フランス語、中国語及び韓国語を置き、国際的なコミュニケーション能力の向上を目的とします。(次頁に詳細を説明)

② 健康スポーツ科学

自己の健康を自分自身で管理していくこと、また、健康維持や余暇活動に対するスポーツの有効性について理解を深めるとともに、生命のしくみや不思議さ・巧みさに関心を持ち、将来にわたり「からだと脳の健康」のために行動できる知識を得ることを目的とします。

③ 情報処理とデータサイエンス

現代において不可欠な情報機器や情報ネットワークの活用能力の修得と情報モラルと情報セキュリティについて理解することを目的とします。また近年のデジタル社会ではビッグデータやAIの利活用によりデータが価値を生み出すようになっており、ここで必要となるデータサイエンスの基礎素養の修得も目的としています。

④ キャリアデザイン

大学生活がさまざまな分野で活躍する社会人としての自己実現のための一過程であることを認識し、主体的に自らのキャリアを構築していくための方法を学ぶことを目的とします。

⑤ 地域理解とリーダーシップ

地域への知識・理解を深め、他者と共生・協働する重要性を認識し、それらを基盤としながら発展的に応用し得る実践的能力を獲得することを目的とします。

【教養科目】

① 人間と文化

豊かな人間性を涵養するため、人間の本質に対する洞察を深め、精神的活動の所産としての文化を理解することを目的とします。

② 自然と環境

科学技術の基本的な原理や最先端の利用法に対する理解を深め、科学技術の現代社会及び環境問題とのかかわりについて多角的な考察を行うことを目的とします。

③ 社会と世界

法律、政治、経済、情報等様々な要因から規定されている社会が我々の生活にどのように関わっているのかを学ぶことを目的とします。また、グローバル化が進展する現代世界における経済問題・国際関係についての理解を通し、我が国の国際的位置付けや役割などについて考察し、国際人としての見識を養うことを目的とします。

<英語>

(全学的目標)

英語での対話を通して情報のやりとりを行い、また、新聞等の日常的な文章を理解し、自分の考えを文章にできる。異文化に対する興味関心を持ち、自国文化と対照しながら、ものごとを考えることができる。

(習得すべき能力の具体的な目標)

<日本語日本文学科>

自己紹介から各自の専門、時事問題まで、自らの考えを平易な英語と聞き取りやすい発音でプレゼンテーションできるようになること、および、時間をかけてでも論理的な文章が読み解けるようになることを目標とする。

<英語英米文学科>

英語で「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」の基礎的な4技能の獲得を目指す。その際、正確に英語を使うための知識・技能(質)と一度に多くの情報を処理する技能(量)のバランスの取れた能力の育成を目指す。同時にこの基礎的な4技能を学科の専門分野の研究に有機的に繋げていくことを目標とする。

上記目標達成のため、英語については、必修科目と選択科目の2種類が設けられています。必修科目である Basic English では、英語で「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」の基礎的な4技能の獲得を目指し、学科別に以下の内容が設定されています。

(必修科目)

<日本語日本文学科>

科目名	開講時期	授業概要
Basic English I Basic English II	1年次前期 1年次後期	対話型の授業による4技能の基礎訓練を行い、基本的な技能及び基本語彙力、基本会話能力の育成を目指します。
Basic English III Basic English IV	1年次前期 1年次後期	e-learning型の授業による「読む」「聴く」に焦点を置いた基礎訓練を行い、基本語彙力も育成していきます。
Basic English V Basic English VI	2年次前期 2年次後期	対話型の授業による4技能の発展的な訓練を行い、技能及び語彙力を育成しながら、異文化理解を目指します。

<英語英米文学科>

科目名	開講時期	授業概要
Basic English I Basic English II	1年次前期 1年次後期	e-learningや多読型の授業による4技能の基礎力に焦点を置き、基本的な技能及び語彙力の育成を目指します。

※英語英米文学科では、発展的な英語運用科目が学科の必修科目として設定されています。

(選択科目)

必修科目に加え、全学共通の「選択科目」が多数開講されています。Basic English で学ぶ基礎的なスキルに加え、さらに高度なコミュニケーション能力を身につけたい、あるいはビジネス、読解能力、プレゼンテーション等の特定のスキルについて力をつけたい学生を対象とした科目です。開講科目は以下のとおりです。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Advanced English I、II • English for Global Business I～IV • Selected Readings in English | <ul style="list-style-type: none"> • English for Studying Abroad • Language & Culture I、II • Intensive English (集中講義) |
|---|--|

【各種検定試験について】

本人の希望により TOEIC®、TOEFL®、実用英語技能検定（英検）、IELTS のスコアあるいは級による単位認定の申請が行われた場合には、以下の基準により単位認定します。（ただし、GPAの算定対象にはなりません。）なお、後期試験前後に申請期間を設けますので、掲示等に注意してください。

単位認定の対象となる科目	TOEIC®による 取得点数	TOEFL®による 取得点数※1	実用英語技能検定 における合格級	IELTS による 取得点数	習得できる 単位数※2	評価
<ul style="list-style-type: none"> • Advanced English I、II • English for Studying Abroad • English for Global Business I～IV※3 • Selected Readings in English 	645 点以上	68 点(520 点) 以上	準1 級	5.0 以上	2 単位	秀
	730 点以上	79 点(550 点) 以上		6.0 以上	4 単位	秀
	800 点以上	90 点(577 点) 以上	1 級	6.5 以上	6 単位	秀

※1 TOEFL® のスコアの括弧内は ITP テストによる取得点数。

※2 上記の検定試験等の外部試験の対応する取得点数、合格級を得た場合に修得できる単位数を示す。

※3 「English for Global Business III」及び「English for Global Business IV」は次の取得点数以上の場合に単位認定の対象とする。

TOEIC®による 取得点数	TOEFL®による 取得点数	実用英語技能検定 における合格級	IELTSによる 取得点数
730点以上	79点(550点) 以上	1 級	6.0以上

<初修外国語>

(全学的目標)

週1回90分の授業で、当該外国語を理解する最低限の初級文法と語彙を習得し、基本的表現を発信する能力を習得する。併せて異文化に対する理解を深める。

(習得すべき能力の具体的な目標)

上記の「全学的目標」を踏まえ、文学部ではより高度な学科の目標を以下のとおり設定している。

<日本語日本文学科>

1年次における週2回90分の授業で、日常的コミュニケーションを可能とする表現を習得するとともに、辞書の助けを得て、一般の文書を読み、また手紙等の文書を書くことができる能力を取得する。

<英語英米文学科>

1年次における週2回90分の授業で、日常的コミュニケーションを可能とする表現を習得するとともに、辞書の助けを得て、一般の文書を読み、また手紙等の文書を書くことができる能力を取得する。さらに、2年次における週1回90分の授業で、上記能力を、より多くの教材に触れることで安定化させ、確実なものとする。

初修外国語科目として、ドイツ語、フランス語、中国語及び韓国語が開設されています。各言語について、1年次前期の「入門B」（初級、週2回）で初級レベルを終え、1年次後期「基礎」（中級、週2回）へ進むことになっています。2年次には「発展Ⅰ・Ⅱ」（上級、週1回）が開講されています。「発展Ⅰ・Ⅱ」は「基礎」（中級）レベルを学習し終えていることを前提としています。日本語日本文学科は「基礎」まで、英語英米文学科では「発展Ⅰ・Ⅱ」までが必修です。各学部・学科によって卒業要件単位が異なるので注意してください。

2 日本語日本文学科の教育課程紹介

日本語日本文学科では、日本語や日本文学に関心を抱く学生がより高度な専門知識を身につけ、その豊かな感受性を存分に開花させることを願って、共通科目群や学部共通科目との連携の上に、日本語学・日本文学・日本語教育の主要科目と教職科目を設定して様々な学問的要請に応える態勢をとっています。

本学科には、卒業論文履修分野として日本語学・日本文学・日本語教育・地域文化・人文学の5分野があります。分野とは、卒業論文の作成にむけて、必修科目の他にどのような科目を選択・履修してゆけば、その具体的な知識や能力が得られるのかを示した、大まかな道筋のことです。本学科学生としての共通の必修科目や必修単位数はありますが、半分以上の単位は学生の選択に任されています。自分の適性・卒業論文の分野・卒業後の進路等を考えて5つの分野のいずれかに重点を置いた授業選択をしてほしいと思います。したがって、入学後はただ漫然と過ごすのではなく、自分の関心にあわせた授業選択をしながら、2年次以降に専攻する分野のイメージを固めていくことが重要です。

日本語学分野は、ことばについて研究したい、研究をしようという人の分野です。アプローチのしかたはいろいろです。大きく見渡しても、文法、日本語の歴史、語彙、表記、辞書、方言と、様々な角度から取り組むことができます。

日本文学分野は、日本の古代から近現代にいたる文学作品を研究します。実際には、研究領域の拡大にとまない、あらゆる文献・書物が研究対象といってもよいでしょう。読書の形態、学問の歴史、造本・書写・印刷など書物に関する研究なども、対象とみなします。

日本語教育分野は、日本語教師を目指す人、非母語話者による日本語習得のメカニズムを研究したい人などを対象とした分野です。日本語教員養成課程で日本語教育の基礎的な知識、教授法に関する専門的知識・技術を学びつつ、卒業論文では非母語話者による日本語の習得という複雑な現象を、調査や実験といった客観的手法を用いて研究します。

地域文化分野は、地域のことばや文化・歴史を学びながら、フィールドワークなどを通じて体験的に知識を深化させていき、文献資料を基礎に地域を研究することをめざす分野です。提供されるプログラムは専ら熊本を対象としたものですが、卒業論文では関心にあわせた対象地域を選んで研究ができます。

人文学分野は、日本のことばや文学を、異文化、異言語との比較の観点から掘り下げようという場合、あるいは歴史学や日本の文化とかわらせながら探究したい人のための分野です。

本学科の授業は、下級生向けには、基本的なもの、広い範囲を扱う「概論」や「基礎論」、上級生向けには、特殊な問題を深く掘り下げる「演習」や「特殊研究」が多く配置されています。すなわち、まずは「概論」や「基礎論」などで基本的な知識や方法論を身に付け、次に「演習」において研究対象を深く掘り下げて考える実践的訓練を積み、さらに「特殊研究」において教員の専門とする分野の細かい指導を受けながら卒業論文を作成する、という手順になっています。また、研究テーマの確定やその調査研究はじっくりと時間をかけて行う必要があるため、「演習」や「特殊研究」は同一教員の科目を複数年次にわたって受講できるようになっています。(但し分野により違いがあります。また、人数が多すぎる場合は制限されることもあります。)

【日本語日本文学科の卒業要件単位数、開講科目一覧表及び履修上の注意】

- 1 25頁の「卒業要件単位数」表の専門科目の部分の詳細に説明したものが31頁の「日本語日本文学科カリキュラムの概要」です。履修上の注意を参考によく読んで、単位の取り落としのないように気をつけてください。
- 2 教員免許関係と日本語教育関係の科目・単位については当該ページを参照。多くは本学科の主要科目に含まれていますが、学部共通科目から選択履修しなければならない科目もあるので注意してください。

(1) 日本語日本文学科の進級要件

- ア 2年次までに、合計50単位以上修得しなければ3年次に進級できません。
- イ 卒業論文の履修資格は、卒業予定年次の前年度末において共通科目群及び専門科目群から合計80単位以上を修得した者に与えられます。

(2) 日本語日本文学科の卒業要件

4年以上在学し、次の単位数以上を修得しなければなりません。

区分	分類	分野		卒業要件単位数				
				必修単位数	選択必修単位数	選択単位数		
共通科目群 a	基盤科目	外国語	Basic English I～VI	b	6	—	※その他の単位 (左の他に4単位を修得)	
			英語以外の外国語	c	—	4		
			bとc以外の科目 (Basic English以外の英語科目)	d	—	—		
		健康スポーツ科学	e	2	1			
		情報処理とデータサイエンス	f	6	—			
		キャリアデザイン	g	2	—			
		地域理解とリーダーシップ	もやいすと(地域)ジュニア育成	h	—	2		
			もやいすと(防災)ジュニア育成	h	—	2		
			新熊本学	i	—	2		
			hとi以外の科目	j	—	—		
	教養科目	人間と文化	k	—	2			
		自然と環境	l	—	2			
		社会と世界	m	—	2			
	小計(A)					16	15	4
					35			
専門科目群 ①	人文基礎	②				4	左の他 12単位を 修得	
	主要科目	③	25			12		
	学部共通科目	④				8		
	演習	⑤				12		
	特殊研究	⑥				4		
	卒業論文	⑦	6					
	小計(B)					31	40	12
					83			
自由選択単位 ア	共通科目(Aを超える単位)			イ			7	
	専門科目(Bを超える単位)			ウ				
	他学部・他学科の専門科目			エ				
	小計(C)							7
合計(A)+(B)+(C)						125		

『共通科目群』

- 必修科目12単位、指定された選択必修科目15単位、それ以外に共通科目群の選択科目より8単位(その他の単位:共通科目群aの※部分)の合計35単位以上を修得すること。
- 英語は「Basic English I」から「Basic English VI」の6科目6単位を必修とする。
- 英語以外の外国語は、ドイツ語、フランス語、中国語及び韓国語(それぞれ入門A I、入門A II、入門B、基礎、発展I、発展II)から1言語4単位以上を選択必修。文学部の学生は1年次前期で「入門B」を、後期で「基礎」を履修すること。
- bとc以外の外国語を修得した場合はその他の単位もしくは自由選択単位アのイに含む。
- 「健康の科学」は必修とし、「生涯スポーツ実習I」「生涯スポーツ実習II」から1科目1単位を選択必修とする。
- 「情報処理入門」「データサイエンス入門」「データサイエンス演習」は必修とする。
- 「プレゼминаール」「キャリア形成論」は必修とする。
- 「もやいすと(地域)ジュニア育成」「もやいすと(防災)ジュニア育成」から1科目2単位を選択必修とする。
- 新熊本学は4科目8単位から1科目2単位を選択必修とする。
- 地域理解とリーダーシップのhとi以外の科目を修得した場合はその他の単位もしくは自由選択単位アのイに含むことができる。
- k, l, m 各分野からそれぞれ1科目2単位以上を選択必修とする。

『**専門科目群**』 ①は、②人文基礎中の4単位、③主要科目中の必修科目25単位及び選択必修科目12単位、④学部共通科目中の8単位、⑤演習中の12単位、⑥特殊研究中の4単位並びに⑦卒業論文6単位を含む、合計83単位以上を修得すること。ただし、⑤の演習12単位中に、日本語学演習ⅠからⅩ及び日本語教育演習ⅠからⅣのうちから4単位以上を、また、古代文学演習ⅠからⅢ、中世文学演習ⅠからⅢ、近世文学演習ⅠからⅢ、近代文学演習ⅠからⅢ、及び日本文学演習ⅠからⅡのうちから4単位以上を含むこととする。なお、②～⑦を合わせると71単位であり、専門科目群の必要単位数83単位には不足する。この足りない12単位は、②～⑥のいずれからでも選択できる。

『**自由選択単位**』 アとは、共通科目群の必要単位数35単位と専門科目群の必要単位数83単位を合わせても118単位であり、卒業に必要な単位数の125単位に不足する。この足りない7単位を、自由選択単位として、イ、ウ、エのいずれからでも選択できるようにするものである。

イ 共通科目群の必要単位数35単位を超えて修得した単位数。

ウ 専門科目群の必要単位数83単位を超えて修得した単位数。

エ 所属学科の専門科目群に含まれていない他学部・他学科の専門科目の単位を自由選択単位の中に含めることができる。(履修方法等は36頁の「他学部・他学科開講科目の履修について」を参照。)

【日本語日本文学科 1 年次生履修ガイド】

以下に示すのは、1 年次対象に開講されている主要な授業を、時間割に配置したものです。表下の注意をよく読んで、個々の関心や予定する研究テーマ・資格にあわせて時間割を組み履修してください。履修予定の個々の科目の単位数をよく確認し、年間をとおして 49 単位に収まるよう気をつけて選びましょう。

前学期

前	月	火	水	木	金
1限		健康の科学	歴史基礎論 文学研究への招待	初修外国語	初修外国語
2限				文献学基礎論	日本語教授法 I
3限	教養科目 自然と環境 他	教養科目 社会と世界 他	教養科目 人間と文化 他	生涯スポーツ実習 I	Basic English III
4限			日本語学概論 I	生涯スポーツ実習 I	古典文学史 I
5限	情報処理入門 (日文)	プレゼミナール	Basic English I		キャリア形成論
6限		もやいすと (地域) ジュニア育成			

時間枠外

地域踏査演習 (前学期に事前学習・夏季休業中に実地踏査を実施予定。詳しくは掲示により連絡)

注意事項

1. 授業科目名が**ゴシック**で記されている科目は、必修科目です。また、1 年次で履修しておくことが好ましい科目です。
2. アンダーラインの科目は、履修選択のうえで注意を要する科目です。
 - ・歴史基礎論、文学研究への招待… 4 科目の中から 2 科目以上を選んで履修しなければならない人文基礎科目の 1 つです。
2 年次でも履修は可能ですが、教職科目等と重なっているため、それらも履修したい場合には、2 年次あるいは 3 年次にまたがる計画を立てて選ぶ必要があります。
 - ・生涯スポーツ実習…できるだけ学科として指定された時間帯の方で受講してください。

後学期

後	月	火	水	木	金
1限		言語基礎論 知識と方法	Basic English II	初修外国語	初修外国語
2限		近代文学史			日本語教授法 II
3限	教養科目 自然と環境 他	教養科目 社会と世界 他	教養科目 人間と文化 他	生涯スポーツ実習 II	Basic English IV
4限			日本語学概論 II	生涯スポーツ実習 II	
5限	情報処理発展 (日文)		文学研究法基礎		
6限			データサイエンス入門		もやしすと (防災) ジュニア育成

- ・ 情報処理発展…必修ではありませんが、情報処理技術を身につけるためには、早い時期に履修することが望まれます。
- ・ 言語基礎論、知識と方法… 4科目の中から2科目以上を選んで履修しなければならない、人文基礎科目の1つです。

【日本語日本文学科履修モデル】

以下に示すのは、標準的な履修パターンに沿った科目選択の考え方です。これをもとに個々の関心や予定する研究テーマにあわせて、自分で組合せを選んで履修してください。

2年次

2年次配当の必修科目

+

4年次の研究テーマを考慮した選択必修科目、学習時間のバランス・進級要件を考えた履修科目数

(その際に)

演習は1年で2科目程度が望ましい。ただし、演習12単位中に、日本語学演習ⅠからⅩ及び日本語教育演習ⅠからⅣのうちから4単位以上を、また、古代文学演習ⅠからⅢ、中世文学演習ⅠからⅢ、近世文学演習ⅠからⅢ、近代文学演習ⅠからⅢ、及び日本文学演習ⅠからⅡのうちから4単位以上をそれぞれ含むことが卒業要件となっています。

教職をめざす人は、2年次配当の教職科目を、

地域文化分野を学ぼうとする人は、「方言学基礎論」「地域文化研究」「地域文献講読Ⅱ」を優先して、科目選択を行きましょう。

3年次

3年次配当の必修科目

+

4年次の研究テーマを念頭においた「演習」「特殊研究」の選択。また、卒業要件を考慮した履修科目数。

+

教職を目指す人は、3年次配当の教職科目

日本語日本文学科 履修上の注意

以下は、何を中心に学びたいかをもとに、履修のモデルとして分野設定をしたものです。各分野ごとに、必修科目以外で履修しておくことが望ましい科目を示しました。これらを中心としながら、他の科目からも幅広く履修してください。

1 日本語学分野

- ◇主要科目
日本語学関連科目
- ◇学部共通科目
日本語教育及び日本文化関連科目
- ◇演習
日本語学関連科目と日本文学関連科目
- ◇特殊研究
卒論指導教員の担当科目

2 日本文学分野

- ◇主要科目
日本文学関連科目
- ◇学部共通科目
日本文化及び中国文化関連科目
- ◇演習
日本文学関連科目と日本語学関連科目（含む日本語教育関連科目）
- ◇特殊研究
卒論指導教員の担当科目

3 日本語教育分野

- ◇主要科目
日本語教育関連科目
- ◇学部共通科目
言語基礎論、現代日本語の分析、日本語教育関連科目
- ◇演習
日本語教育、日本語学関連科目、日本文学関連科目
- ◇特殊研究
卒論指導教員の担当科目

4 地域文化分野

- ◇主要科目
方言学基礎論、地域文献講読Ⅰ・Ⅱ
- ◇学部共通科目
地域文化研究Ⅰ・Ⅱ、歴史学講義Ⅰ・Ⅱ
- ◇演習
関心のある分野・時代に合わせて選択、日本語学・日本文学関連科目
- ◇特殊研究
卒論指導教員の担当科目
*その他、教養科目群の地域理解（新熊本学）の履修、各種フィールドワークへの積極的参加が望ましい。

5 人文学分野

- ◇学部共通科目
人文学概論、卒論領域及び隣接領域関連講義
- ◇演習
卒論領域及び隣接領域関連演習、日本語学、日本文学関連科目
- ◇特殊研究
卒論指導教員の担当科目

3 英語英米文学科の教育課程紹介

英語英米文学科のカリキュラムは「読む・書く・聞く・話す」の英語運用能力を培い、批判的思考能力や問題発見解決能力を身に付け、最終的に専門領域の探求ができるように配置されています。

この目的のため、英語英米文学科では1年次より4年次まで、セミナーをカリキュラムの中心に据える、4-year Seminar Systemとしています。考えて発表するアクティブ・ラーニング形式のセミナーにすべての学びが反映されることで、学習効果を実感しながらステップアップしていきます。具体的には、以下のセミナーを展開しています。

1年次：Seminar for Cultural Literacy (SCL) 世界問題をCLILで学びます。

1年次：Seminar for Critical Thinking (SCT) TOKの枠組みで議論を行います。

2年次：Seminar for Core Subjects (SCS) 主要科目について英語で議論します。

3年次：Junior Seminar 選択必修で半期に2科目ずつ、専門の基礎を学びます。

4年次：Senior Seminar 選択必修で半期に1科目選び、卒業論文を完成させます。

*CLIL: Contents and Language Integrated Learningのことで、英語で様々なトピックについて学習する理論のことで。

*TOK: Theory of Knowledgeのことで、国際バカロレアの必修科目となっている、「知識を正しく理解し、使用するための枠組み」のことで。

このほかにも多くの科目があります。英語の4技能を中心に学習する英語運用科目と並行して、英語音声学、英米文学通史講読、英米文学発展講読、英文法、英語学概論、英語史などの主要科目、さらには日本語教育関連科目や文化・思想についての周辺科目を網羅的に学びます。学科の指定した留学先で取得した単位を振替えることのできるStudying Abroadも特色のある科目です。共通科目や学部共通科目と合わせて、教職課程にも対応したカリキュラムとなっています。

本学科は卒業論文を課しており、研究計画を立てて自主的に取り組むことが期待されています。Junior Seminar及び卒業論文の指導 (Senior Seminar) 担当者一覧は以下の通りです。

村尾治彦	英語学
レイヴィン・リチャード	英語教育
吉井 誠	英語教育
武上 富美	英語教育
虹林 慶	英文学
田中 和也	英文学
吉田 希依	米文学
難波 美和子	英語圏文学
原 紘子	異文化コミュニケーション

【英語英米文学科の卒業要件単位数、開講科目一覧表及び履修上の注意】

- ① 33頁の「卒業要件単位数」表の専門科目の部分を詳細に説明したものが35頁の「英語英米文学科カリキュラムの概要」です。履修上の注意を参考によく読んで、単位の取り落としのないように気をつけてください。
- ② 教員免許関係の科目・単位については当該頁を参照してください。

(1) 英語英米文学科の進級要件

- ア 2年次までに、合計50単位以上修得しなければ3年次に進級できません。
- イ 卒業論文の履修資格は、卒業予定年次の前年度末において共通科目群及び専門科目群から合計 80 単位以上を修得した者に与えられます。

(2) 英語英米文学科の卒業要件

4年以上在学し、次の単位数以上を習得しなければなりません。

区分	分類	分野			卒業要件単位数		
					必修単位数	選択必修単位数	選択単位数
共通科目群 a	基盤科目	外国語	Basic English I、II	b	2	—	※その他の単位 (左の他に2単位を修得)
			英語以外の外国語	c	—	6	
			bとc以外の科目 (Basic English 以外の英語科目)	d	—	—	
		健康スポーツ科学	e	2	1		
		情報処理とデータサイエンス	f	6	—		
		キャリアデザイン	g	2	—		
		地域理解と リーダーシップ	もやいすと (地域) ジュニア育成 もやいすと (防災) ジュニア育成	h	—	2	
			新熊本学	i	—	2	
			hとi以外の科目	j	—	—	
	教養科目	人間と文化	k	—	2		
		自然と環境	l	—	2		
		社会と世界	m	—	2		
小計 (A)					12	17	2
					31		
専門科目群 ①	人文基礎		②			4	左の他 8単位を修得
	主要科目		③	36	12		
	学部共通科目		④		8		
	演習		⑤		8		
	特殊研究		⑥		4		
	卒業論文		⑦	6			
	小計 (B)					42	36
					86		
自由選択単位ア	共通科目 (Aを超える単位)			イ			8
	専門科目 (Bを超える単位)			ウ			
	他学部・他学科の専門科目			エ			
小計 (C)							8
合計 (A) + (B) + (C)					125		

『共通科目群』

- a 必修科目12単位、指定された選択必修科目17単位、それ以外に共通科目群の選択科目より2単位 (その他の単位: 共通科目群 a の※部分) の合計31単位以上を修得すること。
- b 英語は「Basic English I」「Basic English II」の2科目2単位を必修とする。
- c 英語以外の外国語は、ドイツ語、フランス語、中国語及び韓国語 (それぞれ入門A I、入門A II、入門B、基礎、発展I、発展II) から1言語6単位以上を選択必修。文学部の学生は1年次前期で「入門B」を、後期で「基礎」を履修すること。
- d bとc以外の外国語を修得した場合はその他の選択単位 (2単位中) もしくは自由選択単位ア (8単位中) のイに含む。
- e 「健康の科学」は必修とし、「生涯スポーツ実習 I」「生涯スポーツ実習 II」から1科目1単位を選択必修とする。
- f 「情報処理入門」「データサイエンス入門」「データサイエンス演習」は必修とする。
- g 「プレゼミナール」「キャリア形成論」は必修とする。
- h 「もやいすと (地域) ジュニア育成」「もやいすと (防災) ジュニア育成」から1科目2単位を選択必修とする。
- i 新熊本学は4科目8単位から1科目2単位を選択必修とする。
- j 地域理解とリーダーシップのhとi以外の科目を修得した場合はその他の選択単位 (2単位中) もしくは自由選択単位ア (8単位中) のイに含むことができる。
- k, l, m 各分野からそれぞれ1科目2単位以上を選択必修とする。

『専門科目群』①は、②人文基礎中の4単位、③主要科目中の必修科目36単位、主要科目中の選択必修単位12単位（英語学、英米文学、英語教育からそれぞれ1科目以上を履修すること）、④学部共通科目中の8単位、⑤3年次に開講のJunior Seminar（演習科目）中、I・II各4単位、計8単位、⑥4年次に開講のSenior Seminar（特殊研究）中、I・II各2単位、計4単位並びに⑦卒業論文6単位を含む、合計86単位以上を修得すること。なお、②～⑦を合わせると78単位であり、専門科目群の必要単位数86単位には不足する。この足りない8単位は、専門科目群のいずれからでも選択できる。

『自由選択単位』アは、共通科目群の必要単位数31単位と専門科目群の必要単位数86単位を合わせても117単位であり、卒業に必要な単位数の125単位に不足する。この足りない8単位を、自由選択単位として、イ、ウ、エいずれからでも選択できるようにするものである。

イ 共通科目群の必要単位数31単位を超えて修得した単位数。

ウ 専門科目群の必要単位数86単位を超えて修得した単位数。

エ 所属学科の専門科目群に含まれていない他学部・他学科の専門科目の単位。（履修方法等は38頁の「他学部・他学科開講科目の履修について」を参照。）

・主要科目については36単位が必修、12単位が選択必修科目となっています。選択必修科目群は以下の通りです。ここから6科目を履修します。ただし、必ず英語学、英米文学、英語教育の分野について、それぞれ1科目以上履修義務があります。

英語音声学Ⅰ

英語史

英語学特別講義Ⅱ

英語教育特別講義Ⅰ

英米文学発展講読A

英米詩概論

英文学特別講義Ⅰ

米文学特別講義Ⅰ

Studying AbroadⅠ

英語音声学Ⅱ

英語学特別講義Ⅰ

英語教育講義

英語教育特別講義Ⅱ

英米文学発展講読B

英米文学多読入門

英文学特別講義Ⅱ

米文学特別講義Ⅱ

Studying AbroadⅡ

・Studying Abroadは、該当する留学プログラム（オンラインを含む）について、授業時間数や内容を考慮して単位として認める科目です。原則として協定校（英語圏あるいは英語を使用する海外の大学）とSAF（Studying Abroad Federation）の提供するプログラムとなります。Studying Abroadとして認定できる単位は最大4単位で、「主要科目」の選択必修科目12単位のうちに含めることができます。

・Seminar科目（1～4年次）は再履修が困難なものもあります。確実に合格できるように万全を期しましょう。

・Junior Seminarは、各学期4単位を超えて履修することも可能です（受け入れ人数をオーバーしていない場合）。その場合は、学部共通科目として卒業要件単位に含めることができますが、事前に教務委員に相談してください。

【日本語日本文学科・英語英米文学科 共通】

他学部・他学科開講科目の履修について

文学部の学生は、所属学科の専門科目群に含まれていない他学部（総合管理学部と環境共生学部）・他学科の専門科目について、履修願を教務入試課に提出することにより履修することができます。ただし、原則として演習・実習及び実験は対象外とします。

また、修得した単位は、他学部科目については10単位まで、他学科科目については20単位まで、合計した上限20単位までを自由選択単位に含めることができます。ただし、教職関連科目群は、卒業要件に含まれません。

対象となる科目については、各学部の「履修の手引」を参照してください。

外国人留学生の特別科目に関する履修の特例について

ア 外国人留学生は母語を外国語として履修することはできません。履修言語が母語ではなく公用語である場合、その言語の履修上の扱いは学部がその都度決めます。

イ 英語を母語としない留学生は、日本語を初修外国語とすることができます。その場合、日本語日本文学科の学生は4単位以上、英語英米文学科の学生は6単位以上を必修とします。

ウ 英語を母語とする留学生は、日本語を英語または初修外国語に振り替えます。その場合、各学科における英語または初修外国語の必修単位数を日本語で修得してください。初修外国語に振り替える場合は、英語の必修単位数を初修外国語から修得してください。

エ 外国人留学生が修得した日本事情科目の単位のうち6単位までを共通科目群の「その他の単位」（注）に振り替えることができます。

（注）「その他の単位」については、卒業要件のページ（P25、33）の説明文 a を参照してください。

4 学科別授業一覧

共通科目群 (両学科共通)

時間割 コード	授業科目名	教職 科目	担当者 (非常勤)	○ は 単 位 数 修	配当年次	週コマ数	備考	
◆基盤科目								
◇外国語								
11160101	Basic English I a (日文)	教職	(Gilbert)	①	1 年前期	1		
11160102	Basic English I b (日文)	教職	(Jenkinson)	①	1 年前期	1		
11160701	Basic English I (英文)	教職	吉田	①	1 年前期	1		
11160201	Basic English II a (日文)	教職	(Jenkinson)	①	1 年後期	1		
11160202	Basic English II b (日文)	教職	(トウメイ)	①	1 年後期	1		
11160801	Basic English II (英文)	教職	吉田	①	1 年後期	1		
11120311	Basic English III (日文)		(安浪)	①	1 年前期	1		
11120411	Basic English IV (日文)		(安浪)	①	1 年後期	1		
11160301	Basic English V a (日文)		(トウメイ)	①	2 年前期	1		
11160302	Basic English V b (日文)		難波	①	2 年前期	1		
11160401	Basic English VI a (日文)		(Tourmat)	①	2 年後期	1		
11160402	Basic English VI b (日文)		(永尾)	①	2 年後期	1		
11150101	Advanced English I		(有働牧)	1	1~4 年前期	1		集中講義★
11150201	Advanced English II		(岡崎紀)	1	1~4 年後期	1		
11150301	English for Studying Abroad		(岡崎紀)	1	1~4 年前期	1		
11150401	English for Global Business I a		(岡崎利)	1	1~4 年前期	1		
11150402	English for Global Business I b		(岡崎紀)	1	1~4 年前期	1		
11150501	English for Global Business II a		(岡崎紀)	1	1~4 年後期	1		
11150502	English for Global Business II b		(岡崎利)	1	1~4 年後期	1		
11150601	English for Global Business III		(岡崎紀)	1	1~4 年前期	1		
11150701	English for Global Business IV		(岡崎紀)	1	1~4 年後期	1		
11151001	Language and Culture I		原	1	1~4 年前期	1		
11151101	Language and Culture II		(Mortenson)	1	1~4 年後期	1		
11151201	Selected Readings in English		(岡崎紀)	1	1~4 年後期	1		
11151301	Intensive English		Lavin・他	2	1~4 年後期			
11151401	Moyaist Global Entry Training		Lavin・田中和	1	1 年後期	1		
11151501	Moyaist Global Training I		(Tourmat)	1	2 年前期	1	もやいすとグローバル育成プログラム参加学生のみが履修できる科目。 もやいすとグローバル育成プログラムの詳細や参加方法は各種お知らせを確認すること。	
11151601	Moyaist Global Training II		(Tourmat)	1	2 年後期	1		
11151701	Moyaist Global Training III		Lavin	1	3 年前期	1		

共通科目群(両学科共通)

時間割 コード	授業科目名	教職 科目	担当者 (非常勤)	単 位 数 ○ は 必 修	配当年次	週コマ数	備考
11136101	フランス語入門A I a		(Ferrero)	1	1 年前期	1	※フランス語、ドイツ語、中国語及び韓国語のうち、日本語日本文学科は1言語4単位以上を英語英米文学科は1言語6単位以上を修得すること。 ※文学部の学生は1年次は「入門B」と「基礎」を履修すること。
11136102	フランス語入門A I b		(Sebban)	1	1 年前期	1	
11136201	フランス語入門A II a		(Ferrero)	1	1 年後期	1	
11136202	フランス語入門A II b		(Sebban)	1	1 年後期	1	
11136301	フランス語入門B		(木下)	2	1 年前期	2	
11136401	フランス語基礎		(木下)	2	1 年後期	2	
11136501	フランス語発展I		(木下)	1	2 年前期	1	
11136601	フランス語発展II		(木下)	1	2 年後期	1	
11137101	ドイツ語入門A I a		(岩佐)	1	1 年前期	1	
11137102	ドイツ語入門A I b		(吉田)	1	1 年前期	1	
11137201	ドイツ語入門A II a		(岩佐)	1	1 年後期	1	
11137202	ドイツ語入門A II b		(吉田)	1	1 年後期	1	
11137301	ドイツ語入門B		(Bauer)	2	1 年前期	2	
11137401	ドイツ語基礎		(Bauer)	2	1 年後期	2	
11137501	ドイツ語発展I		(吉田)	1	2 年前期	1	
11137601	ドイツ語発展II		(吉田)	1	2 年後期	1	
11138101	中国語入門A I a		(趙)	1	1 年前期	1	
11138102	中国語入門A I b		(趙)	1	1 年前期	1	
11138103	中国語入門A I c		(馮)	1	1 年前期	1	
11138201	中国語入門A II a		(趙)	1	1 年後期	1	
11138202	中国語入門A II b		(趙)	1	1 年後期	1	
11138203	中国語入門A II c		(馮)	1	1 年後期	1	
11138301	中国語入門B a		山田	2	1 年前期	2	
11138302	中国語入門B b		(岡村)	2	1 年前期	2	
11138401	中国語基礎a		山田	2	1 年後期	2	
11138402	中国語基礎b		(岡村)	2	1 年後期	2	
11138501	中国語発展I a		山田	1	2 年前期	1	
11138502	中国語発展I b		(岡村)	1	2 年前期	1	
11138601	中国語発展II a		山田	1	2 年後期	1	
11138602	中国語発展II b		(岡村)	1	2 年後期	1	
11139101	韓国語入門A I a		(金)	1	1 年前期	1	
11139102	韓国語入門A I b		(矢野)	1	1 年前期	1	
11139201	韓国語入門A II a		(金)	1	1 年後期	1	
11139202	韓国語入門A II b		(矢野)	1	1 年後期	1	
11139301	韓国語入門B a		(辛)	2	1 年前期	2	
11139302	韓国語入門B b		(田)	2	1 年前期	2	
11139401	韓国語基礎a		(辛)	2	1 年後期	2	
11139402	韓国語基礎b		(田)	2	1 年後期	2	
11139501	韓国語発展I		(田)	1	2 年前期	1	
11139601	韓国語発展II		(田)	1	2 年後期	1	

共通科目群(両学科共通)

時間割コード	授業科目名	教職科目	担当者(非常勤)	○は必修 単位数	配当年次	週コマ数	備考
◇健康スポーツ科学							
11510401	健康の科学(文・環) ^{※1}	教職	青木	②	1年前期	1	
11510201	生涯スポーツ実習Ⅰ(3限クラス)	教職	青木・他	1	1年前期	1	
11510202	生涯スポーツ実習Ⅰ(4限クラス)	教職	青木・他	1	1年前期	1	
11510301	生涯スポーツ実習Ⅱ(3限クラス)	教職	青木・他	1	1年後期	1	
11510302	生涯スポーツ実習Ⅱ(4限クラス)	教職	青木・他	1	1年後期	1	
◇情報処理とデータサイエンス							
13100111	情報処理入門(日文クラス)	教職	(川田)	②	1年前期	1	
13100121	情報処理入門(英文クラス)	教職	金井	②	1年前期	1	
13101011	データサイエンス入門(文学部クラス)		松田	②	1年後期	1	
13101111	データサイエンス演習(日文クラス)		松田	②	2年前期	1	
13101121	データサイエンス演習(英文クラス)		松田	②	2年前期	1	
◇キャリアデザイン							
13310111	プレゼминаール		担当教員	①	1年前期	1	※原則として月二回開講
48602111	キャリア形成論		担当教員	①	1年前期	1	インターンシップは自由科目とし、その単位は卒業要件には含まない。インターンシップは1年次後期から3年次後期の間で履修登録できる。インターンシップは派遣終了後に履修登録を行う。
48601111	インターンシップ1(春季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601211	インターンシップ2(春季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601311	インターンシップ3(春季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601401	インターンシップ4(春季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601501	インターンシップ5(春季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601601	インターンシップ6(春季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601701	インターンシップ7(春季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601113	インターンシップ1(夏季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601213	インターンシップ2(夏季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601313	インターンシップ3(夏季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601413	インターンシップ4(夏季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601513	インターンシップ5(夏季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601613	インターンシップ6(夏季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
48601713	インターンシップ7(夏季)		担当教員	1	1年後期～3年後期	1	
◇地域理解とリーダーシップ							
12800101	もやいすと(地域)ジュニア育成		津曲・柴田	2	1～4年前期	1	いずれか1科目選択必修
12800201	もやいすと(防災)ジュニア育成		津曲・柴田	2	1～4年後期	1	
12800701	もやいすとシニア育成		柴田	2	2～4年後期	1	
12800401	減災リテラシー入門		澤田	2	1～4年前期	1	
12312401	新熊本学:ことば、表現、歴史		鈴木・他	2	1～4年後期	1	
12711501	新熊本学:熊本の生活と環境		松添・他	2	1～4年後期	1	
12800501	新熊本学:地域のビジネスリーダーに学ぶ		望月	2	1～4年前期	1	
12800601	新熊本学:地域社会と協働		澤田・他	2	1～4年後期	1	
12800801	Kumamoto Studies		Lavin、田中耕	2	2年前期	1	
12800901	もやいすとシニア(グローバル)育成		Lavin	2	2年後期	1	
48603001	グローバル実践活動			1	3年通年		

※1 2016年度以前入学者は、健康とスポーツ科学(文・環)

共通科目群(両学科共通)

時間割 コード	授 業 科 目 名	教職 科目	担当者 (非常勤)	○は必修 単位数	配当年次	週コマ数	備 考
◆教養科目							
◇人間と文化							
12310101	哲学の基礎		(立花)	2	1～4年前期	1	
12320101	科学の思想		(立花)	2	1～4年後期	1	
12310401	人間と宗教		(慶田)	2	1～4年前期	1	
12310701	心理学入門a		(田中)	2	1～4年前期	1	
12310702	心理学入門b		石井	2	1～4年前期	1	
12311801	人権と文化	教職	難波	2	1～4年前期	1	
12312201	現代世界と歴史		大島	2	1～4年後期	1	
12311201	近代日本の歩み		大島	2	1～4年前期	1	
12311401	現代の文学		難波	2	1～4年前期	1	
12311701	人間と芸術		(永田)	2	1～4年後期	1	
12320201	西洋文化圏の理解		(内田)	2	1～4年前期	1	
12500901	東アジア文化圏の理解		(有働彰)	2	1～4年後期	1	
12501001	日本の文化		羽鳥	2	1～4年後期	1	
12501101	Performing Arts of Japan (日本芸能論)		羽鳥	2	1～4年前期	1	
◇自然と環境							
12710301	環境と生物圏		堤	2	1～4年後期	1	※九州電力協力講座 本年度休講
12710501	エネルギーと社会		(上田)	2	1～4年前期	1	
12710801	海の生物資源		一宮	2	1～4年後期	1	
12710901	人間と植物生産		松添	2	1～4年前期	1	
12711001	暮らしの中の化学技術		石橋	2	1～4年前期	1	
12711101	環境と生きる		小林	2	1～4年後期	1	
12720101	住まいと地域環境		柴田・他	2	1～4年前期	1	
12711301	食と健康		岸・他	2	1～4年後期	1	
12711601	持続可能な開発と教育	教職	石村	2	1～4年後期	1	
◇社会と世界							
12500101	現代の国際関係		高埜	2	1～4年前期	1	※NTT西日本協力講座 ※熊本日日新聞社協力講座
12500201	世界の経済		(松尾)	2	1～4年前期	1	
12910101	国際協力論		(木下)	2	1～4年前期	1	
12900101	生活と憲法	教職	佐藤	2	1～4年後期	1	
12900201	現代社会と政治		(朝倉)	2	1～4年前期	1	
12900301	現代社会と法律	教職	(岡本)	2	1～4年前期	1	
12900701	情報と社会		(谷口)	2	1～4年前期	1	
12900801	マスメディア論		(今村)	2	1～4年後期	1	
12901001	現代社会と企業		(林)	2	1～4年後期	1	

外国人留学生の特別科目(外国人留学生に対してのみ開講)

時間割 コード	授 業 科 目 名	教職 科目	担当者 (非常勤)	○は必修 単位数	配当年次	週コマ数	備 考
(日本語)							
休講	日本語A-1			2	1～2年前期	2	本年度休講
休講	日本語A-2			2	1～2年後期	2	本年度休講
11200301	日本語B-1		(大庭)	2	1～2年前期	2	
11200401	日本語B-2		(大庭)	2	1～2年前期	2	
(日本事情に関する科目)							
12200101	日本事情Ⅰ		文学部教員	2	1～4年前期	1	本年度休講
休講	日本事情Ⅱ		環境共生学部教員	2	1～4年後期	1	
12200301	日本事情Ⅲ		総合管理学部教員	2	1～4年後期	1	

日本語日本文学科 専門科目群

時間割 コード	授業科目名	教職 科目	担当者 (非常勤)	○は必修単 位数	配当年次	週コマ数	備 考
人文基礎							
33000101	文学研究への招待		難波	2	1年前期	1	
33000201	知識と方法		羽鳥	2	1年後期	1	
33000301	言語基礎論		村尾	2	1年後期	1	
33000401	歴史基礎論		大島	2	1年前期	1	
主要科目							
(日本語学)							
33101101	日本語学概論Ⅰ	教職	小川	②	1年前期	1	
33101201	日本語学概論Ⅱ	教職	半藤	②	1年後期	1	
33102101	日本語史Ⅰ	教職	米谷	②	3年前期	1	
33102201	日本語史Ⅱ	教職	米谷	②	3年後期	1	
33103101	日本語学史		米谷	2	3年後期	1	
33104101	日本文法Ⅰ	教職	半藤	②	2年前期	1	
33104201	日本文法Ⅱ	教職	半藤	②	2年後期	1	
33121101	方言学基礎論		小川	2	2年前期	1	
33544101	現代日本語の分析		小川	②	2年後期	1	
(日本文学)							
33150301	文献学基礎論	教職	鈴木	②	1年前期	1	※隔年開講 地域文献購読Ⅰと交互 ※隔年開講 ※隔年開講 ※隔年開講 ※隔年開講 古代文学購読と交互
33150401	文学研究法基礎	教職	五島・他	②	1年後期	1	
33151301	古典文学史Ⅰ	教職	岩田	②	1年前期	1	
33151402	古典文学史Ⅱ	教職	真島	②	2年後期	1	
33150701	古代文学講読	教職	岩田	2	1年後期	1	
33151201	中世文学講読	教職	鈴木	2	2年後期	1	
休講	近世文学講読	教職		2	2年後期	1	
33152101	近代文学史	教職	五島	②	1年後期	1	
休講	近代文学講読	教職		2	1年前期	1	
休講	地域文献講読Ⅰ			2	1年後期	1	
33152701	地域文献講読Ⅱ		真島	2	2年前期	1	
33136101	漢文学史	教職	鈴木	2	2年前期	1	
(日本語教育)							
33161101	日本語教授法Ⅰ	教職	秋葉	2	1年前期	1	
33161201	日本語教授法Ⅱ	教職	秋葉	2	1年後期	1	
33162101	日本語教授法Ⅲ	教職	(道本)	2	2年前期	1	
33162201	日本語教授法Ⅳ	教職	秋葉	2	2年後期	1	
(関連分野)							
33185101	書道Ⅰ(講義)	教職	(林田(恵))	2	1年前期	1	※Ⅲと隔年で開講、集中講義★ ※Ⅰと隔年で開講、集中講義★ ※隔年開講 ※Ⅱと隔年で開講、集中講義★ ※Ⅰと隔年で開講、集中講義★ 集中講義★
33185201	書道Ⅱ(実技)	教職	(林田(俊))	2	1年通年	1	
33181101	古典文化研究Ⅰ		(徳岡)	2	2~3年前期	1	
33181201	古典文化研究Ⅱ		真島	2	2~3年後期	1	
休講	言語文化研究Ⅰ			2	2~3年前期		
33186201	言語文化研究Ⅱ		(堀畑)	2	2~3年後期	1	
33186301	言語文化研究Ⅲ		(堀尾)	2	2~3年前期		
33183501	近代文化研究		五島	2	2~3年前期	1	
33183601	近代地域文化研究		五島	2	2~3年後期	1	
休講	日本古典文化論Ⅰ			2	3年前期		
33533301	日本古典文化論Ⅱ		(荒木)	2	3年前期		
33186501	地域踏査演習		鈴木・他	①	1年前期	1	
33186601	アカデミックスキルⅠ		(安達)	2	2年前期	1	
33186602	アカデミックスキルⅡ		(安達)	2	2年後期	1	

★ 集中講義のうち、★はキャップ制の除外科目となる恒久的な集中講義。

日本語日本文学科 専門科目群

時間割 コード	授業科目名	教職 科目	担当者 (非常勤)	○は必修単 位数	配当年次	週コマ数	備 考
学部共通科目							
33531101	日本文化論Ⅰ		(徳岡)	2	2年前期	1	
33531201	日本文化論Ⅱ		羽鳥	2	2年後期	1	
33534101	中国文学史Ⅰ	教職	(屋敷)	2	3年前期	1	
33534201	中国文学史Ⅱ	教職	(屋敷)	2	3年後期	1	
33536101	日中比較文学Ⅰ		(項)	2	3年前期	1	
33536201	日中比較文学Ⅱ		(項)	2	3年後期	1	
33537101	地域文化研究Ⅰ		(米岡)	2	2～3年後期	1	
33537201	地域文化研究Ⅱ		(木崎)	2	2～3年前期	1	
33502201	西洋文化史Ⅰ		(内田)	2	2年前期	1	
33502301	西洋文化史Ⅱ		(内田)	2	2年後期	1	
休講	歴史学講義Ⅰ			2	2～3年後期	1	※Ⅱと隔年で開講
33539201	歴史学講義Ⅱ		大島	2	2～3年後期	1	※Ⅰと隔年で開講
休講	日本文化史講義Ⅰ			2	2～3年後期	1	※Ⅱと隔年で開講
33567601	日本文化史講義Ⅱ		羽鳥	2	2～3年後期	1	※Ⅰと隔年で開講
休講	思想史講義Ⅰ			2	2～3年後期	1	※Ⅱと隔年で開講
休講	思想史講義Ⅱ			2	2～3年後期	1	※Ⅰと隔年で開講
休講	心理学講義Ⅰ			2	3～4年前期	1	※Ⅱと隔年で開講
33541201	心理学講義Ⅱ		石井	2	3～4年前期	1	※Ⅰと隔年で開講
休講	中国文化論Ⅰ			2	2～3年後期	1	※Ⅱと隔年で開講
33511301	中国文化論Ⅱ		山田	2	2～3年後期	1	※Ⅰと隔年で開講
休講	比較文学講義Ⅰ			2	2～3年後期	1	※Ⅱと隔年で開講
33517301	比較文学講義Ⅱ		難波	2	2～3年後期	1	※Ⅰと隔年で開講
33519401	文化人類学		(慶田)	2	2年後期	1	
33166101	日本語教育教材研究	教職	(島本)	2	3年後期	1	※日本語教育評価法と隔年で開講
休講	日本語教育評価法	教職		2	3年前期		※日本語教育教材研究と隔年で開講、集中講義
33561301	英米文学通史講読Ⅰa		虹林	2	1年前期	1	
33561302	英米文学通史講読Ⅰb		田中和	2	1年前期	1	
33561401	英米文学通史講読Ⅱa		虹林	2	1年後期	1	
33561402	英米文学通史講読Ⅱb		田中和	2	1年後期	1	
33561501	英米文学通史講読Ⅲa			2	2年前期	1	本年度休講
33561502	英米文学通史講読Ⅲb			2	2年前期	1	本年度休講
33561601	英米文学通史講読Ⅳa			2	2年後期	1	本年度休講
33561602	英米文学通史講読Ⅳb			2	2年後期	1	本年度休講
33563301	英米詩概論		虹林	2	2～4年前期	1	本年度休講
33564101	英語学概論Ⅰ		村尾	2	2年前期	1	
33564201	英語学概論Ⅱ		村尾	2	2年後期	1	
33565301	英語史			2	3年前期	1	本年度休講
33566102	英文法Ⅰ		(小深田)	2	1年前期	1	
33566202	英文法Ⅱ		(小深田)	2	1年後期	1	
休講	異文化コミュニケーション論AⅠ			2	3年前期	1	※Ⅱと隔年で開講
33567201	異文化コミュニケーション論AⅡ		(有働彰)	2	3年前期	1	※Ⅰと隔年で開講
33567301	異文化コミュニケーション論BⅠ		原	2	2年前期	1	
33567401	異文化コミュニケーション論BⅡ		原	2	2年後期	1	
13100901	情報処理発展(日文)		(川田)	2	1年後期	1	
休講	心理学演習Ⅰ		石井	2	3～4年後期	1	※ⅠとⅡで隔年開講
33546201	心理学演習Ⅱ		石井	2	3～4年後期	1	
33582201	Junior Seminar F-I		難波	2	3年前期	1	本年度休講
33582301	Junior Seminar F-II		難波	2	3年後期	1	本年度休講

日本語日本文学科 専門科目群

時間割 コード	授業科目名	教職 科目	担当者 (非常勤)	○は必修単 位数	配当年次	週コマ数	備 考	
演習								
33172101	日本語学演習 I-1	教職	米谷	2	2~4年前期	1	I II IIIを3年毎に交互に開講 (本年度休講)	
33172201	日本語学演習 I-2	教職		2	2~4年後期	1		
33172301	日本語学演習 II-1	教職		2	2~4年前期	1		
33172401	日本語学演習 II-2	教職		2	2~4年後期	1		
33172501	日本語学演習 III-1	教職		2	2~4年前期	1		
33172601	日本語学演習 III-2	教職		2	2~4年後期	1		
33172701	日本語学演習 IV-1	教職	半藤	2	2~4年前期	1		IV V VIを3年毎に交互に開講 (本年度休講)
33172801	日本語学演習 IV-2	教職		2	2~4年後期	1		
33172901	日本語学演習 V-1	教職		2	2~4年前期	1		
33173001	日本語学演習 V-2	教職		2	2~4年後期	1		
33173101	日本語学演習 VI-1	教職		2	2~4年前期	1		
33173201	日本語学演習 VI-2	教職		2	2~4年後期	1		
休講	日本語学演習 VII	教職		4	2~4年通年	1		
33122801	日本語学演習 VIII	教職	小川	4	2~4年通年	1	VII VIII IXを3年毎に交互に開講	
休講	日本語学演習 IX	教職		4	2~4年通年	1		
33123001	日本語学演習 X		(瀬楽)	2	2年前期	1	集中講義★	
33173301	古代文学演習 I-1	教職	岩田	2	2~4年前期	1	I II IIIを3年毎に交互に開講 (本年度休講)	
33173401	古代文学演習 I-2	教職		2	2~4年後期	1		
33173501	古代文学演習 II-1	教職		2	2~4年前期	1		
33173601	古代文学演習 II-2	教職		2	2~4年後期	1		
33173701	古代文学演習 III-1	教職		2	2~4年前期	1		
33173801	古代文学演習 III-2	教職		2	2~4年後期	1		
33173901	中世文学演習 I-1	教職	鈴木	2	2~4年前期	1		I II IIIを3年毎に交互に開講 (本年度休講)
33174001	中世文学演習 I-2	教職		2	2~4年後期	1		
33174101	中世文学演習 II-1	教職		2	2~4年前期	1		
33174201	中世文学演習 II-2	教職		2	2~4年後期	1		
33174301	中世文学演習 III-1	教職		2	2~4年前期	1		
33174401	中世文学演習 III-2	教職		2	2~4年後期	1		
33174501	近世文学演習 I-1	教職	真島	2	2~4年前期	1	I II IIIを3年毎に交互に開講 (本年度休講)	
33174601	近世文学演習 I-2	教職		2	2~4年後期	1		
33174701	近世文学演習 II-1	教職		2	2~4年前期	1		
33174801	近世文学演習 II-2	教職		2	2~4年後期	1		
33174901	近世文学演習 III-1	教職		2	2~4年前期	1		
33175001	近世文学演習 III-2	教職		2	2~4年後期	1		
33191101	複合演習 I		米谷	2	2~4年前期	1		※IIIと隔年で開講
33192101	複合演習 II		鈴木	2	2~4年後期	1		※IVと隔年で開講
休講	複合演習 III			2	2~4年前期	1		※Iと隔年で開講
休講	複合演習 IV			2	2~4年後期	1		※IIと隔年で開講
休講	近代文学演習 I	教職		4	2~4年通年	1	I II IIIを3年毎に交互に開講	
33126201	近代文学演習 II	教職	五島	4	2~4年通年	1		
休講	近代文学演習 III	教職		4	2~4年通年	1		
33153121	日本文学演習 I		(徳岡)	2	2~4年前期	1		
33153221	日本文学演習 II		(徳岡)	2	2~4年後期	1	I II IIIを3年毎に交互に開講	
休講	日本語教育演習 I			4	2~4年通年	1		
33163201	日本語教育演習 II		秋葉	4	2~4年通年	1		
休講	日本語教育演習 III			4	2~4年通年	1		
33164101	日本語教育演習 IV		(堀田)	2	2年前期	1	※IIIと隔年で開講	
33545101	歴史学演習 I		大島	2	3~4年前期	1		
33545201	歴史学演習 II		大島	2	3~4年後期	1		
休講	歴史学演習 III			2	3~4年前期	1		
休講	歴史学演習 IV			2	3~4年後期	1	※IIと隔年で開講	
33567701	日本文化論演習 I			2	3~4年前期	1	※IIIと隔年で開講 本年度休講	
33567801	日本文化論演習 II			2	3~4年後期	1	※IVと隔年で開講 本年度休講	
33567901	日本文化論演習 III			2	3~4年前期	1	※Iと隔年で開講 本年度休講	
33568001	日本文化論演習 IV			2	3~4年後期	1	※IIと隔年で開講 本年度休講	
休講	思想史演習 I			2	3~4年前期	1	※IIIと隔年で開講	
休講	思想史演習 II			2	3~4年後期	1	※IVと隔年で開講	
休講	思想史演習 III			2	3~4年前期	1	※Iと隔年で開講	
休講	思想史演習 IV			2	3~4年後期	1	※IIと隔年で開講	
33549101	中国文化論演習 I	教職	山田	2	3~4年前期	1	※IIIと隔年で開講	
33549201	中国文化論演習 II	教職	山田	2	3~4年後期	1	※IVと隔年で開講	
休講	中国文化論演習 III	教職		2	3~4年前期	1	※Iと隔年で開講	
休講	中国文化論演習 IV	教職		2	3~4年後期	1	※IIと隔年で開講	

日本語日本文学専攻 専門科目群

時間割コード	授業科目名	教職科目	担当者(非常勤)	○は必修単位数	配当年次	週コマ数	備考
休講	異文化コミュニケーション演習A I			2	3~4年後期	1	※IIと隔年で開講
休講	異文化コミュニケーション演習A II			2	3~4年後期	1	※Iと隔年で開講
特殊研究							
休講	日本語学特殊研究 I			4	3~4年通年	1	※IIと隔年で開講
33110301	日本語学特殊研究 II		米谷	4	3~4年通年	1	※Iと隔年で開講
休講	日本語学特殊研究 III			4	3~4年通年	1	※IVと隔年で開講
33111401	日本語学特殊研究 IV		半藤	4	3~4年通年	1	※IIIと隔年で開講
休講	日本語学特殊研究 V			4	3~4年通年	1	※VIと隔年で開講
33111601	日本語学特殊研究 VI		小川	4	3~4年通年	1	※Vと隔年で開講
休講	古代文学特殊研究 I			4	3~4年通年	1	※IIと隔年で開講
33112201	古代文学特殊研究 II		岩田	4	3~4年通年	1	※Iと隔年で開講
休講	中世文学特殊研究 I			4	3~4年通年	1	※IIと隔年で開講
33113201	中世文学特殊研究 II-a		鈴木	4	3~4年通年	1	} ※Iと隔年で開講
33113202	中世文学特殊研究 II-b		真島	4	3~4年通年	1	
33570301	近世文学特殊研究 I			4	3~4年通年	1	※IIと隔年で開講 本年度休講
33570401	近世文学特殊研究 II			4	3~4年通年	1	※Iと隔年で開講 本年度休講
休講	近代文学特殊研究 I			4	3~4年通年	1	※IIと隔年で開講
33115201	近代文学特殊研究 II		五島	4	3~4年通年	1	※Iと隔年で開講
休講	日本語教育特殊研究 I			4	3~4年通年	1	※IIと隔年で開講
33165201	日本語教育特殊研究 II		秋葉	4	3~4年通年	1	※Iと隔年で開講
33555101	歴史学特殊研究 I		大島	2	4年前期	1	} 本年度休講 本年度休講
33555201	歴史学特殊研究 II		大島	2	4年後期	1	
33570101	日本文化論特殊研究 I			2	4年前期	1	
33570201	日本文化論特殊研究 II			2	4年後期	1	
休講	思想史特殊研究 I			2	4年前期	1	
休講	思想史特殊研究 II			2	4年後期	1	
33553101	中国文化論特殊研究 I		山田	2	4年前期	1	
33553201	中国文化論特殊研究 II		山田	2	4年後期	1	
休講	異文化コミュニケーション特殊研究 A I			2	4年前期	1	
休講	異文化コミュニケーション特殊研究 A II			2	4年後期	1	
卒業論文							
48100001	卒業論文			⑥	4年次		4年次配当

英語英米文学科 専門科目群

時間割 コード	授業科目名	教職 科目	担当者 (非常勤)	○は必修単 位数	配当年次	週コマ数	備 考
人文基礎							
33000101	文学研究への招待		難波	2	1年前期	1	
33000201	知識と方法		羽鳥	2	1年後期	1	
33000301	言語基礎論		村尾	2	1年後期	1	
33000401	歴史基礎論		大島	2	1年前期	1	
主要科目							
(現代英語運用)							
33320101	Reading & Writing I a	教職	(Minor)	①	1年前期	1	
33320102	Reading & Writing I b	教職	(Mortenson)	①	1年前期	1	
33320103	Reading & Writing I c	教職	(Tomei)	①	1年前期	1	
33320201	Reading & Writing II a	教職	(Tournat)	①	1年後期	1	
33320202	Reading & Writing II b	教職	(Cairns)	①	1年後期	1	
33320203	Reading & Writing II c	教職	(Jenkinson)	①	1年後期	1	
33320301	Reading & Writing III a	教職	(Cairns)	①	2年前期	1	
33320302	Reading & Writing III b	教職	(Tomei)	①	2年前期	1	
33320303	Reading & Writing III c	教職	(Jenkinson)	①	2年前期	1	
33320401	Reading & Writing IV a	教職	(Tomei)	①	2年後期	1	
33320402	Reading & Writing IV b	教職	(Cairns)	①	2年後期	1	
33320403	Reading & Writing IV c	教職	(Gilbert)	①	2年後期	1	
33316401	Research Writing I a	教職	(Minor)	②	3年前期	1	
33316402	Research Writing I b	教職	(Cairns)	②	3年前期	1	
33316403	Research Writing I c	教職	(Tournat)	②	3年前期	1	
33316501	Research Writing II a	教職	(Minor)	②	3年後期	1	
33316502	Research Writing II b	教職	(Cairns)	②	3年後期	1	
33316503	Research Writing II c	教職	(Gilbert)	②	3年後期	1	
33316601	言語表現と翻訳技法 I	教職	(永尾)	1	3~4年前期	1	
33316701	言語表現と翻訳技法 II	教職	難波	1	3~4年後期	1	
33319601	Seminar for Core Subjects Aa	教職	吉井	②	2年前期	1	
33319602	Seminar for Core Subjects Ab	教職	(Tomei)	②	2年前期	1	
33319603	Seminar for Core Subjects Ac	教職	田中	②	2年前期		
33319604	Seminar for Core Subjects Ad	教職	原	②	2年前期		
33319701	Seminar for Core Subjects Ba	教職	虹林	②	2年後期		
33319702	Seminar for Core Subjects Bb	教職	吉田	②	2年後期		
33319703	Seminar for Core Subjects Bc	教職	村尾	②	2年後期	1	
33319704	Seminar for Core Subjects Bd	教職	Lavin	②	2年後期	1	
33319201	Seminar for Cultural Literacy I a	教職	吉井	②	1年前期	1	
33319202	Seminar for Cultural Literacy I b	教職	武上	②	1年前期	1	
33319203	Seminar for Cultural Literacy I c	教職	(Minor)	②	1年前期	1	
33319301	Seminar for Cultural Literacy II a	教職	田中和	②	1年後期	1	
33319302	Seminar for Cultural Literacy II b	教職	Lavin	②	1年後期	1	
33319303	Seminar for Cultural Literacy II c	教職	(Minor)	②	1年後期	1	
33319401	Seminar for Critical Thinking I a	教職	Lavin	②	1年前期	1	
33319402	Seminar for Critical Thinking I b	教職	原	②	1年前期	1	
33319403	Seminar for Critical Thinking I c	教職	田中和	②	1年前期	1	
33319501	Seminar for Critical Thinking II a	教職	吉井	②	1年後期	1	
33319502	Seminar for Critical Thinking II b	教職	原	②	1年後期	1	
33319503	Seminar for Critical Thinking II c	教職	武上	②	1年後期	1	
33320501	Advanced Academic Skills I			1	3年前期	1	本年度休講
33320601	Advanced Academic Skills II			1	3年後期	1	本年度休講
33320701	Advanced Academic Skills III			1	4年前期	1	本年度休講
33320801	Advanced Academic Skills IV			1	4年後期	1	本年度休講

英語英米文学科 専門科目群

時間割コード	授業科目名	教職科目	担当者(非常勤)	○は必修単位数	配当年次	週コマ数	備考
学部共通科目							
33531101	日本文化論Ⅰ		(徳岡)	2	2年前期	1	
33531201	日本文化論Ⅱ		羽鳥	2	2年後期	1	
33534101	中国文学史Ⅰ		(屋敷)	2	3年前期	1	
33534201	中国文学史Ⅱ		(屋敷)	2	3年後期	1	
33536101	日中比較文学Ⅰ		(項)	2	3年前期	1	
33536201	日中比較文学Ⅱ		(項)	2	3年後期	1	
33537101	地域文化研究Ⅰ		(米岡)	2	2～3年後期	1	
33537201	地域文化研究Ⅱ		(木崎)	2	2～3年前期	1	
33502201	西洋文化史Ⅰ	教職	(内田)	2	2年前期	1	
33502301	西洋文化史Ⅱ	教職	(内田)	2	2年後期	1	
	休講 歴史学講義Ⅰ			2	2～3年後期	1	} ※ⅠとⅡで隔年開講
33539201	歴史学講義Ⅱ		大島	2	2～3年後期	1	
	休講 日本文化史講義Ⅰ			2	2～3年後期	1	} ※ⅠとⅡで隔年開講
33567601	日本文化史講義Ⅱ		羽鳥	2	2～3年後期	1	
	休講 思想史講義Ⅰ			2	2～3年後期	1	} ※ⅠとⅡで隔年開講
	休講 思想史講義Ⅱ			2	2～3年後期	1	
	休講 心理学講義Ⅰ			2	3～4年前期	1	} ※ⅠとⅡで隔年開講
33541201	心理学講義Ⅱ		石井	2	3～4年前期	1	
	休講 中国文化論Ⅰ			2	2～3年後期	1	} ※ⅠとⅡで隔年開講
33511301	中国文化論Ⅱ		山田	2	2～3年後期	1	
	休講 比較文学講義Ⅰ			2	2～3年後期	1	} ※ⅠとⅡで隔年開講
33517301	比較文学講義Ⅱ		難波	2	2～3年後期	1	
	休講 異文化コミュニケーション論AⅠ			2	3年前期	1	} ※ⅠとⅡで隔年開講
33567201	異文化コミュニケーション論AⅡ		(有働彰)	2	3年前期	1	
33567301	異文化コミュニケーション論BⅠ	教職	原	2	2年前期	1	
33567401	異文化コミュニケーション論BⅡ	教職	原	2	2年後期	1	
33519401	文化人類学		(慶田)	2	2年後期	1	
33544101	現代日本語の分析		小川	2	2年後期	1	
33166101	日本語教育教材研究	教職	(島本)	2	3年後期	1	※日本語教育評価法と隔年で開講
	休講 日本語教育評価法	教職		2	3年前期	1	※日本語教育教材研究と隔年で開講、集中講義
33101101	日本語学概論Ⅰ		小川	2	1年前期	1	
33101201	日本語学概論Ⅱ		半藤	2	1年後期	1	
33102101	日本語史Ⅰ		米谷	2	3年前期	1	
33102201	日本語史Ⅱ		米谷	2	3年後期	1	
33104101	日本文法Ⅰ		半藤	2	2年前期	1	
33104201	日本文法Ⅱ		半藤	2	2年後期	1	
33161101	日本語教授法Ⅰ		秋葉	2	1年前期	1	
33161201	日本語教授法Ⅱ		秋葉	2	1年後期	1	
33162101	日本語教授法Ⅲ	教職	(道本)	2	2年前期	1	
33162201	日本語教授法Ⅳ	教職	秋葉	2	2年後期	1	
13100521	情報処理発展(英文)		(島谷)	2	1年後期	1	
33545101	歴史学演習Ⅰ		大島	2	3～4年前期	1	※Ⅲと隔年で開講
33545201	歴史学演習Ⅱ		大島	2	3～4年後期	1	※Ⅳと隔年で開講
	休講 歴史学演習Ⅲ			2	3～4年前期	1	※Ⅰと隔年で開講
	休講 歴史学演習Ⅳ			2	3～4年後期	1	※Ⅱと隔年で開講
33567701	日本文化論演習Ⅰ			2	3～4年前期	1	※Ⅲと隔年で開講 本年度休講
33567801	日本文化論演習Ⅱ			2	3～4年後期	1	※Ⅳと隔年で開講 本年度休講
33567901	日本文化論演習Ⅲ			2	3～4年前期	1	※Ⅰと隔年で開講 本年度休講
33568001	日本文化論演習Ⅳ			2	3～4年後期	1	※Ⅱと隔年で開講 本年度休講
	休講 思想史演習Ⅰ			2	3～4年前期	1	※Ⅲと隔年で開講
	休講 思想史演習Ⅱ			2	3～4年後期	1	※Ⅳと隔年で開講
	休講 思想史演習Ⅲ			2	3～4年前期	1	※Ⅰと隔年で開講
	休講 思想史演習Ⅳ			2	3～4年後期	1	※Ⅱと隔年で開講
	休講 心理学演習Ⅰ		石井	2	3～4年後期	1	} ※ⅠとⅡで隔年開講
33546201	心理学演習Ⅱ		石井	2	3～4年後期	1	
33549101	中国文化論演習Ⅰ		山田	2	3～4年前期	1	※Ⅲと隔年で開講
33549201	中国文化論演習Ⅱ		山田	2	3～4年後期	1	※Ⅳと隔年で開講
	休講 中国文化論演習Ⅲ		山田	2	3～4年前期	1	※Ⅰと隔年で開講
	休講 中国文化論演習Ⅳ		山田	2	3～4年後期	1	※Ⅱと隔年で開講
	休講 異文化コミュニケーション演習AⅠ			2	3～4年後期	1	} ※ⅠとⅡで隔年開講
	休講 異文化コミュニケーション演習AⅡ			2	3～4年後期	1	
	休講 日本語教育演習Ⅰ			4	2～4年通年	1	} ※ⅠⅡⅢを3年毎に交互に開講
33163201	日本語教育演習Ⅱ		秋葉	4	2～4年通年	1	
	休講 日本語教育演習Ⅲ			4	2～4年通年	1	
33164102	日本語教育演習Ⅳ		(堀田)	2	2年前期	1	

英語英米文学科専門科目群

時間割 コード	授業科目名	教職 科目	担当者 (非常勤)	○は必修単 位数	配当年次	週コマ数	備考
演習							
33581101	Junior Seminar A-I		村尾	2	3年前期	1	本年度休講
33581201	Junior Seminar A-II		村尾	2	3年後期	1	本年度休講
33581301	Junior Seminar B-I		(未定)	2	3年前期	1	本年度休講
33581401	Junior Seminar B-II		(未定)	2	3年後期	1	本年度休講
33581501	Junior Seminar C-I		虹林	2	3年前期	1	本年度休講
33581601	Junior Seminar C-II		虹林	2	3年後期	1	本年度休講
33581701	Junior Seminar D-I		田中和	2	3年前期	1	本年度休講
33581801	Junior Seminar D-II		田中和	2	3年後期	1	本年度休講
33581901	Junior Seminar E-I		吉田	2	3年前期	1	本年度休講
33582101	Junior Seminar E-II		吉田	2	3年後期	1	本年度休講
33582201	Junior Seminar F-I		難波	2	3年前期	1	本年度休講
33582301	Junior Seminar F-II		難波	2	3年後期	1	本年度休講
33582401	Junior Seminar G-I		原	2	3年前期	1	本年度休講
33582501	Junior Seminar G-II		原	2	3年後期	1	本年度休講
33582601	Junior Seminar H-I		吉井	2	3年前期	1	本年度休講
33582701	Junior Seminar H-II		吉井	2	3年後期	1	本年度休講
33582801	Junior Seminar I-I		Lavin	2	3年前期	1	本年度休講
33582901	Junior Seminar I-II		Lavin	2	3年後期	1	本年度休講
33583101	Junior Seminar J-I		武上	2	3年前期	1	本年度休講
33583201	Junior Seminar J-II		武上	2	3年後期	1	本年度休講

英語英米文学科 専門科目群

時間割 コード	授業科目名	教職 科目	担当者 (非常勤)	○は必修単 位数	配当年次	週コマ数	備 考
特殊研究							
33585101	Senior Seminar A-I		村尾	2	4年前期	1	本年度休講
33585201	Senior Seminar A-II		村尾	2	4年後期	1	本年度休講
33585301	Senior Seminar B-I		(未定)	2	4年前期	1	本年度休講
33585401	Senior Seminar B-II		(未定)	2	4年後期	1	本年度休講
33585501	Senior Seminar C-I		虹林	2	4年前期	1	本年度休講
33585601	Senior Seminar C-II		虹林	2	4年後期	1	本年度休講
33585701	Senior Seminar D-I		田中	2	4年前期	1	本年度休講
33585801	Senior Seminar D-II		田中	2	4年後期	1	本年度休講
33585901	Senior Seminar E-I		吉田	2	4年前期	1	本年度休講
33586101	Senior Seminar E-II		吉田	2	4年後期	1	本年度休講
33586201	Senior Seminar F-I		難波	2	4年前期	1	本年度休講
33586301	Senior Seminar F-II		難波	2	4年後期	1	本年度休講
33586401	Senior Seminar G-I		原	2	4年前期	1	本年度休講
33586501	Senior Seminar G-II		原	2	4年後期	1	本年度休講
33586601	Senior Seminar H-I		吉井	2	4年前期	1	本年度休講
33586701	Senior Seminar H-II		吉井	2	4年後期	1	本年度休講
33586801	Senior Seminar I-I		Lavin	2	4年前期	1	本年度休講
33586901	Senior Seminar I-II		Lavin	2	4年後期	1	本年度休講
33587101	Senior Seminar J-I		武上	2	4年前期	1	本年度休講
33587201	Senior Seminar J-II		武上	2	4年後期	1	本年度休講
卒業論文							
48100002	卒業論文			⑥	4年次		4年次配当

教職に関する科目(両学科共通)

時間割コード	授業科目名	担当者(非常勤)	○は必修単位数	配当年次	週コマ数	備考
930102	教育原理	石村	②	2年前期	1	} いずれか1科目選択必修 集中講義 中学校教諭のみ必修 集中講義
940702	教職論	(徳島)	②	1年後期	1	
930301	教育社会学	(中園)	2	3年後期	1	
940101	教育制度論	(中園)	2	3年前期	1	
942201	教育心理学	石井・(井邑)	②	2年前期	1	
942301	特別支援教育	(肥後)	①	2年後期	1	
941001	教育課程論	石村	②	3年前期	1	
941101	道德教育の理論と方法	石村	②	2年後期	1	
942401	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	(大野)	②	2年後期	1	
930701	教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む。)	宮園・(内山)	②	2年後期	1	
942101	生徒指導の理論と方法	石井	②	3年前期	1	
942601	教育相談の理論と方法(進路指導及びキャリア教育を含む。)	石井	②	3年後期	1	
941501	教育実習指導	石村・他	②	4年前期	1	
939201	教育実習(中高)	石村・他	④	4年次	※	
940001	教育実習(高)	石村・他	②	4年次	※	
942701	教職実践演習(中・高)	石村・他	②	4年後期	1	

※国語科の指導法に関する科目

時間割コード	授業科目名	担当者(非常勤)	○は必修単位数	配当年次	週コマ数	備考
931101	国語科教育法Ⅰ	(仁野平)	2	3年前期	1	中学校教諭一種免許状の場合、4科目必修。高等学校一種免許状取得の場合、2科目選択必修。(但し、教育実習履修のためには、4年次に進級するまでにⅠ及びⅡの単位修得が必要。)
931201	国語科教育法Ⅱ	(仁野平)	2	3年後期	1	
931301	国語科教育法Ⅲ	(西村)	2	4年前期	1	
931401	国語科教育法演習	(西村)	2	4年後期	1	

※英語科の指導法に関する科目

時間割コード	授業科目名	担当者(非常勤)	○は必修単位数	配当年次	週コマ数	備考
932101	英語科教育法Ⅰ	(堤(厚))	2	3年前期	1	中学校教諭一種免許状の場合、4科目必修。高等学校一種免許状取得の場合、2科目選択必修。(但し、教育実習履修のためには、4年次に進級するまでにⅠ及びⅡの単位修得が必要。)
932201	英語科教育法Ⅱ	武上	2	3年後期	1	
932301	英語科教育法Ⅲ	武上	2	4年前期	1	
932501	英語科教育法セミナー	(堤(厚))	2	4年後期	1	

5 教育職員免許状の取得について

本学は、「総合性への志向」、「地域性の重視」、「国際性の推進」を理念として掲げており、人文、自然、社会の学問分野を包括する総合的な知識の形成を図り、地域社会が当面する諸問題を分析解決するとともに国際社会の発展に寄与できる、創造力豊かな人材の育成を行っています。以上に基づき、豊かな教養と総合的な知識を十分に生かし、幅広い視点から物事を冷静に分析し考察する能力を身に付けるとともに、確かな行動力をもって実践的に地域の教育に貢献できる教員を養成しています。

○文学部日本語日本文学科

広く人文学的な視野のもと、日本語・日本文学の歴史と現在の中に新たな学問的発見を求めていく過程を通して、日本語の共時的な構造を通時的な見通しのもとに理解して効果的に分析説明する能力、及び、文献学的知見を踏まえて各時代の代表的文学作品や論説を読解し分析する能力の双方を向上させます。また、身につけた幅広い教養と高い専門性を生かし、学校教育現場において、個々の学習者が日本語の言語文化を学び自らその担い手となることの充実感を実感できる指導を行う能力を備えた、人間性豊かな人材を養成します。

○文学部英語英米文学科

高度な英語運用能力の習得を目標とした現代英語運用科目、ならびに専門科目である英語学、英文学、米文学、英語教育を学ぶことによって、英語の構造と意味、英語圏の文化、歴史、社会思想に関する知識を有し、かつ教育現場においてそれらの知識を活かし効果的な教科指導と教育指導ができる人材を養成します。また多文化共生への深い理解力を備え、現代に望まれる人間教育を遂行できる人材を養成します。

各教育職員免許状を取得するには、それぞれの学科の卒業に必要な単位の他に、以下の2) 文学部における教育職員免許状取得で修得すべき授業科目に示す科目の単位を修得し、都道府県教育委員会に各自で申請することが必要です。熊本県教育委員会への申請は、本学教職課程の単位を満たしている場合は教務入試課で一括して行います。

1) 取得できる免許状の種類

文学部	日本語日本文学科	中学校教諭一種免許状	国語
		高等学校教諭一種免許状	国語
	英語英米文学科	中学校教諭一種免許状	英語
		高等学校教諭一種免許状	英語

2) 文学部における教育職員免許状取得で修得すべき授業科目

修得すべき授業科目は、(1) 教科及び教科の指導法に関する科目、(2) 大学が独自に設定する科目、(3) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目、(4) 教育の基礎的理解に関する科目等の4つに分類されています。次の表は、各免許状の取得に必要とされる科目名と単位数を示したものです。数字は単位数で、数字を○で囲んである科目は、各免許種別の必修科目です。

(1) 教科及び教科の指導法に関する科目

日本語日本文学科

【中学校教諭一種免許状（国語）】

- 1 中学校教諭一種免許状（国語）取得のためには、次表の科目から合計28単位を修得し、さらに、免許法施行規則に定める区分等からそれぞれ1単位以上修得しなければなりません。
- 2 28単位を超えるものは、「(2) 大学が独自に設定する科目」の単位とすることができます。
- 3 ○は教科及び教科の指導法に関する科目として必修科目です。

免許法施行規則に定める区分等		授 業 科 目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	○日本語学概論 I (音声言語を含む。) 2 ○日本語学概論 II (音声言語を含む。) 2 ○日本語史 I 2 ○日本語史 II 2 ○日本文法 I (文章表現を含む。) 2 ○日本文法 II 2 日本語教授法 I (音声言語を含む。) 2 日本語教授法 II (文章表現を含む。) 2 日本語学演習 I-1, I-2, II-1, II-2, III-1, III-2 2×1 2 IV-1, IV-2, V-1, V-2, VI-1, VI-2 日本語学演習 VII~IX 4×3
		国文学 (国文学史を含む。)	○文献学基礎論 (国文学史を含む。) 2 ○文学研究法基礎 (国文学史を含む。) 2 ○古典文学史 I 2 古代文学講読 2 ○古典文学史II 2 中世文学講読 2 近世文学講読 2 ○近代文学史 2 近代文学講読 2 古代文学演習 I-1, I-2, II-1, II-2, III-1, III-2 2×6 中世文学演習 I-1, I-2, II-1, II-2, III-1, III-2 2×6 近世文学演習 I-1, I-2, II-1, II-2, III-1, III-2 2×6 近代文学演習 I~III 4×3
		漢文学	○漢文学史 2 中国文学史 I 2 中国文学史 II 2 中国文化論演習 I 2 中国文化論演習 II 2 中国文化論演習III 2 中国文化論演習IV 2
		書道 (書写を中心とする。)	書道 I (講義) 2 ○書道 II (実技) 2
		各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	○国語科教育法 I 2 ○国語科教育法 II 2 ○国語科教育法 III 2 ○国語科教育法演習 2

【高校教諭一種免許状（国語）】

- 1 高等学校教諭一種免許状（国語）取得のためには、次表の科目から合計24単位を修得し、さらに、免許法施行規則に定める区分等からそれぞれ1単位以上修得しなければなりません。
- 2 24単位を超えるものは、「(2)大学が独自に設定する科目」の単位とすることができます。
- 3 ○は教科及び教科の指導法に関する科目として必修科目です。
- 4 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）は2科目4単位以上選択必修です。但し、後述「(4)教育の基礎的理解に関する科目等」の「3」に記載のとおり、教育実習を履修するには、4年次に進級するまでに「国語科教育法Ⅰ」「国語科教育法Ⅱ」の単位を修得していなければなりません。

免許法施行規則に定める区分等		授 業 科 目	単位数	
教科及び教科の指導に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	○日本語学概論Ⅰ（音声言語を含む。） ○日本語学概論Ⅱ（音声言語を含む。） ○日本語史Ⅰ ○日本語史Ⅱ ○日本文法Ⅰ（文章表現を含む。） ○日本文法Ⅱ 日本語教授法Ⅰ（音声言語を含む。） 日本語教授法Ⅱ（文章表現を含む。） 日本語学演習Ⅰ-1,Ⅰ-2,Ⅱ-1,Ⅱ-2,Ⅲ-1,Ⅲ-2 Ⅳ-1,Ⅳ-2,Ⅴ-1,Ⅴ-2,Ⅵ-1,Ⅵ-2 日本語学演習Ⅶ～Ⅸ	2 2 2 2 2 2 2 2 2×12 4×3
		国文学 (国文学史を含む。)	○文献学基礎論（国文学史を含む。） ○文学研究法基礎（国文学史を含む。） ○古典文学史Ⅰ 古代文学講読 ○古典文学史Ⅱ 中世文学講読 近世文学講読 ○近代文学史 近代文学講読 古代文学演習Ⅰ-1,Ⅰ-2,Ⅱ-1,Ⅱ-2,Ⅲ-1,Ⅲ-2 中世文学演習Ⅰ-1,Ⅰ-2,Ⅱ-1,Ⅱ-2,Ⅲ-1,Ⅲ-2 近世文学演習Ⅰ-1,Ⅰ-2,Ⅱ-1,Ⅱ-2,Ⅲ-1,Ⅲ-2 近代文学演習Ⅰ～Ⅲ	2 2 2 2 2 2 2 2 2×6 2×6 2×6 4×3
	漢文学	○漢文学史 中国文学史Ⅰ 中国文学史Ⅱ 中国文化論演習Ⅰ 中国文化論演習Ⅱ 中国文化論演習Ⅲ 中国文化論演習Ⅳ	2 2 2 2 2 2 2	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	国語科教育法Ⅰ 国語科教育法Ⅱ 国語科教育法Ⅲ 国語科教育法演習	2 2 2 2	

英語英米文学科

【中学校教諭一種免許状（英語）】

- 1 中学校教諭一種免許状（英語）取得のためには、次表の科目から合計28単位を修得し、さらに、免許法施行規則に定める区分等からそれぞれ1単位以上修得しなければなりません。
- 2 28単位を超えるものは、「（2）大学が独自に設定する科目」の単位とすることができます。
- 3 ○は教科及び教科の指導法に関する科目として必修科目です。

免許法施行規則に定める区分等		授 業 科 目	単位数	
教科及び教科の指導に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	○英語学概論 I ○英語学概論 II ○英語音声学 I ○英語音声学 II ○英語史 ○英文法 I ○英文法 II ○英語教育講義	2 2 2 2 2 2 2 2
		英語文学	○英米文学通史講読 I ○英米文学通史講読 II 英米文学発展講読 A ○英米文学通史講読 III ○英米文学通史講読 IV 英米文学発展講読 B 英米詩概論 英語圏文学講読 I 英語圏文学講読 II	2 2 2 2 2 2 2 2 2
		英語コミュニケーション	○Seminar for Cultural Literacy I Seminar for Cultural Literacy II ○Seminar for Critical Thinking I Seminar for Critical Thinking II ○Reading & Writing I ○Reading & Writing II ○Reading & Writing III Reading & Writing IV Research Writing I Research Writing II 言語表現と翻訳技法 I 言語表現と翻訳技法 II ○Seminar for Core Subjects A ○Seminar for Core Subjects B	2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 1 1 2 2
		異文化理解	西洋文化史 I 西洋文化史 II ○異文化コミュニケーション論 B I 異文化コミュニケーション論 B II	2 2 2 2
		各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	○英語科教育法 I ○英語科教育法 II ○英語科教育法 III ○英語科教育法セミナー	2 2 2 2

【高等学校教諭一種免許状（英語）】

- 1 高等学校教諭一種免許状（英語）取得のためには、次表の科目から合計24単位を修得し、さらに免許法施行規則に定める区分等からそれぞれ1単位以上修得しなければなりません。
- 2 24単位を超えるものは、「（2）大学が独自に設定する科目」の単位とすることができます。
- 3 ○は教科及び教科の指導法に関する科目として必修科目です。
- 4 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）は2科目4単位以上選択必修です。但し、後述「（4）教育の基礎的理解に関する科目等」の「3」に記載のとおり、教育実習を履修するには、4年次に進級するまでに「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」の単位を修得していなければなりません。

施行規則に定める区分等		授 業 科 目	単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	○英語学概論Ⅰ ○英語学概論Ⅱ ○英語音声学Ⅰ ○英語音声学Ⅱ ○英語史 ○英文法Ⅰ ○英文法Ⅱ ○英語教育講義	2 2 2 2 2 2 2 2
		英語文学	○英米文学通史講読Ⅰ ○英米文学通史講読Ⅱ 英米文学発展講読A ○英米文学通史講読Ⅲ ○英米文学通史講読Ⅳ 英米文学発展講読B 英米詩概論 英語圏文学講読Ⅰ 英語圏文学講読Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2 2
		英語コミュニケーション	○Seminar for Cultural LiteracyⅠ Seminar for Cultural LiteracyⅡ ○Seminar for Critical ThinkingⅠ Seminar for Critical ThinkingⅡ ○Reading & WritingⅠ ○Reading & WritingⅡ ○Reading & WritingⅢ Reading & WritingⅣ Research WritingⅠ Research WritingⅡ 言語表現と翻訳技法Ⅰ 言語表現と翻訳技法Ⅱ ○Seminar for Core Subjects A ○Seminar for Core Subjects B	2 2 2 2 1 1 1 1 2 2 1 1 2 2
		異文化理解	西洋文化史Ⅰ 西洋文化史Ⅱ ○異文化コミュニケーション論BⅠ 異文化コミュニケーション論BⅡ	2 2 2 2
		各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ 英語科教育法Ⅲ 英語科教育法セミナー	2 2 2 2

(2) 大学が独自に設定する科目

- 1 中学校（国語、英語）の免許状取得のためには、次表の「大学が独自に設定する科目」と「(1) 教科及び教科の指導に関する科目」さらに「(4) 教育の基礎的理解に関する科目等」から合計4単位以上、高等学校（国語、英語）は12単位以上を修得しなければなりません。
- 2 「大学が独自に設定する科目」として算入した科目の単位は、「(1) 教科及び教科の指導法に関する科目」及び「(4) 教育の基礎的理解に関する科目等」の単位に含めることはできません。

学 科	日本語日本文学科		英語英米文学科	
	中学国語	高校国語	中学英語	高校英語
大学が独自に設定する科目	人権と文化	2		
	持続可能な開発と教育	2		
	道徳教育の理論と方法	※教育の基礎的理解に関する科目等 2	※教育の基礎的理解に関する科目等	2
	日本語教授法Ⅲ	2	2	2
	日本語教授法Ⅳ	2	2	2
	日本語教育教材研究	2	2	2
	日本語教育評価法	2	2	2

(注意事項)

- 1 「道徳教育の理論と方法」は、高等学校教諭一種免許状の取得のために「大学が独自に設定する科目」として扱うことができます。
- 2 他学科の「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位は、「大学が独自に設定する科目」として扱うことはできません。例えば「高校英語」の免許状取得のために、「国語科教育法Ⅰ」の単位を「大学が独自に設定する科目」としてカウントすることはできません。
- 3 高等学校教諭一種免許取得のために、「教育実習（中高）」の4単位のうち2単位を分割して「大学が独自に設定する科目」としてカウントすることはできません。

(修得方法の一例) p. 60の(4) 1 参照

高等学校教諭一種免許状（英語）の取得を目指す場合	
「(2) 大学が独自に設定する科目」での必要単位	12 単位
「(2) 大学が独自に設定する科目」から	
「人権と文化」	2 単位
「持続可能な開発と教育」	2 単位
「道徳教育の理論と方法」	2 単位
「(4) 教育の基礎的理解に関する科目等」から	
「教育社会学」と	
「教育制度論」を両方修得	2 単位
合計	4 単位

残りの4単位は「教科及び教科の指導法に関する科目」から修得（強化に関する科目で最低28単位の修得が必要）

(3) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

学 科		日本語日本文学科		英語英米文学科	
免許法施行規則に定める科目区分等	修得すべき授業科目	中学国語	高校国語	中学英語	高校英語
日本国憲法	生活と憲法	1科目(2単位)以上 選択必修			
	現代社会と法律				
体育	健康の科学	②			
	生涯スポーツ実習Ⅰ	1科目(1単位)以上 選択必修			
	生涯スポーツ実習Ⅱ				
外国語コミュニケーション	Basic English Ⅰ	①			
	Basic English Ⅱ	①			
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理入門	②			

(4) 教育の基礎的理解に関する科目等

- 1 「教育の基礎的理解に関する科目等」として修得した単位で必要最低単位数(中学28単位、高校24単位)を超えたものは、「(2) 大学が独自に設定する科目」の単位とすることができません。
- 2 「道徳教育の理論と方法」は中学校教諭一種免許状取得にあたっては必修ですが、高等学校教諭一種免許状の取得にあたっては、「(2) 大学が独自に設定する科目」として扱うことができます。
- 3 教育実習を履修するには、「教職論」、「教育原理」、「教育心理学」、「生徒指導の理論と方法」のうち2科目以上を修得していなければなりません。さらに4年次に進級するまでに、各教科の指導法Ⅰ及びⅡを修得していなければなりません。
なお、「教育実習指導」の履修状況に問題があり、実習を行うにふさわしくないと認められる場合には、「教育実習」を履修することはできません。

免許法施行規則に定める区分等		授 業 科 目	中 学	高 校
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念ならびに教育に関する歴史及び思想	教育原理	②	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	②	
	教職に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育社会学	1科目(2単位)以上 選択必修	
		教育制度論		
	幼児、自動及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	②	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	①	
教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	②		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法 及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法	②	—
	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	②	
	特別活動の指導法			
	教育の方法と技術	教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む。)	②	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導の理論と方法	②	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	教育相談の理論と方法 (進路指導及びキャリア教育を含む。)	②	
教育実践に関する科目		教育実習指導	①	
	教育実習	教育実習(中高)	④	—
		教育実習(高)	—	② ※中学校も取得する者は (中高)のみ 修得すればよい
	教職実践演習	教職実践演習(中高)	②	

(注意事項)

教育社会学及び教育制度論は選択必修です。もし、2科目履修した場合は、1科目は「(2)大学が独自に設定する科目」の単位とすることができます。

3) 介護等体験について

中学校教諭一種免許状の取得を希望する者は、法律により7日以上の「介護等体験」が必要です。詳細については履修開始後に説明があるので、指示に従ってください。

4) 履修カルテについて

教職課程履修者の履修状況を把握し、教職指導を充実させるために、教職課程履修カルテを作成します。履修カルテの作成の手順と取り扱いについては次のとおりです。

新入生オリエンテーション時：履修カルテの配布、活用方法の説明。

新2・3年生オリエンテーション時：前年度を振り返り、履修カルテを記入。

4年次「教育実習指導」：授業で履修カルテを使用。

4年次「教職実践演習」：授業で履修カルテを使用。

IV 日本語教員養成課程（主専攻・副専攻）について

平成31年に文化審議会国語分科会が発表した日本語教師養成における必須教育内容を含む課程として、本学では「日本語教員養成課程(主専攻)」「日本語教員養成課程(副専攻)」の二つの課程を設置している。「日本語教員養成課程(主専攻)」は文学部日本語日本文学科の学生向け、「日本語教員養成課程(副専攻)」は文学部日本語日本文学科および英語英米文学科の学生向けに開かれた課程であり、以下に記した所定の単位を修得した者には「日本語教員養成課程修了証明書」を発行する。日本語教員養成課程の科目一覧、履修上の注意点、教育実習科目については以下の通りである。

1. 日本語教員養成課程(主専攻): 48単位

5区分	科目名	単位数		備考
社会・文化・地域	歴史基礎論	2	必修: 2 選択: 8	全学共通 全学共通 全学共通 全学共通 全学共通
	文学研究への招待	2		
	文化人類学	2		
	地域文化研究 I	2		
	日本語史 I	②		
	日本語史 II	2		
	文献学基礎論	2		
	文学研究法基礎	2		
	古典文学史 I	2		
	古典文学史 II	2		
	中世文学講読	2		
	近代日本の歩み	2		
	東アジア文化圏の理解	2		
	現代の国際関係	2		
	近代文学史	2		
	日本の文化	2		
	日本文化論 I	2		
	Performing Arts of Japan (日本芸能論)	2		
漢文学史	2			
言語と社会	異文化コミュニケーション論 A I または A II	2	必修: 4 選択: 2	
	言語基礎論	②		
	方言学基礎論	②		
	異文化コミュニケーション論 B I	2		
言語と心理	日本語教育演習 IV	②	必修: 4	全学共通
	教育心理学	②		
言語と教育	日本語教授法 I	②	必修: 14 選択: 2	
	日本語教授法 II	②		
	日本語教授法 III	②		
	日本語教授法 IV	②		
	日本語教育評価法	2		
	日本語教育演習 I II IIIのうちひとつ	④		
	日本語教育教材研究	2		
	情報処理入門 (日文)	②		
言語	日本語学概論 I	②	必修: 12	
	日本語学概論 II	②		
	日本文法 I	②		
	日本文法 II	②		
	現代日本語の分析	②		
	アカデミックスキル I	②		

※○は必修科目

【履修上の注意】

- ・「社会・文化・地域」では、選択科目の中から4科目選んで履修すること。ただし、4科目のうち1科目は「日本文化論Ⅰ」か「日本の文化」を履修すること。
- ・「言語・社会」の選択科目は「異文化コミュニケーション論A(AⅠまたはAⅡ)」か「異文化コミュニケーション論BⅠ」のどちらかひとつを履修すること。
- ・「言語と教育」の選択科目は「日本語教育評価法」「日本語教育教材研究」のどちらかひとつを履修すること。

2. 日本語教員養成課程(副専攻): 30単位

5 区分	科目名	単位数		備考
社会・文化・地域	日本の文化	2	選択: 2	全学共通
	日本文化論 I	2		
言語と社会	言語基礎論	②	必修: 4	
	方言学基礎論	②		
言語と心理	日本語教育演習 IV	②	必修: 2	
言語と教育	日本語教授法 I	②	必修: 12 選択: 2	
	日本語教授法 II	②		
	日本語教授法 III	②		
	日本語教授法 IV	②		
	日本語教育評価法	2		
	日本語教育演習 I II IIIのうちひとつ	④		
	日本語教育教材研究	2		
言語	日本語学概論 I IIのうちひとつ	②	必修: 6 選択: 2	
	日本文法 I	②		
	現代日本語の分析	②		
	日文: アカデミックスキル I	2		
	英文: Seminar for Cultural Literacy I	2		

※○は必修科目

【履修上の注意】

- ・「社会・文化・地域」の選択科目は「日本文化論 I」「日本の文化」のどちらかひとつを履修すること。
- ・「言語と教育」の選択科目は「日本語教育評価法」「日本語教育教材研究」のどちらかひとつを履修すること。
- ・「言語」の選択科目について、日本語日本文学科の学生は「アカデミックスキル I」を、英語英米文学科の学生は「Seminar for Cultural Literacy I」を履修すること。

3. 教育実習について

教育実習は通年開講科目である「日本語教育演習Ⅰ」「日本語教育演習Ⅱ」「日本語教育演習Ⅲ」の中で行う。ただし、課程修了の認定を受けるためには、本学が指定する国内外の日本語教育機関において、実際の日本語学習者を対象にした授業(教壇実習)を行わなければならない。教壇実習は実施予定年度までに以下の科目の単位をすべて修得していることを条件とし、3年次以降に行うこととする。教壇実習を行う予定の者は、2年次から日本語教育演習を履修し、次年度以降に行う教育実習の流れの把握および教壇実習を行う学生の補助に努めることが望ましい。

- ① 言語基礎論
- ② 日本語教授法Ⅰ～Ⅳ
- ③ 日本語学概論ⅠまたはⅡ
- ④ 日本文法Ⅰ
- ⑤ 現代日本語の分析

大学関係の規程等について

- 1 熊本県立大学学則
- 2 熊本県立大学における教育研究上の目的に関する規定
- 3 熊本県立大学学位規程
- 4 熊本県立大学履修規程
- 5 熊本県立大学試験に関する規定
- 6 熊本県立大学成績優秀者表彰規定
- 7 定期試験の受験心得

※ 上記の学則・規程等は、熊本県立大学のホームページ及び学生ポータル内「規程集」に掲載してありますので、必要に応じて読むようにしてください。



この冊子は再生紙を使用しています。